

肥料混合散布機 ブレンダー散布機 取扱説明書 BLD - 270・340・500



肥料混合散布機をご使用になる前に

- 当社製品を安全かつ正しく快適にお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読み下さい。誤った使用方法是事故をひきおこす恐れがあります。
- お読みになったあとも必ず、製品と共に保管して下さい。
- 本製品を貸与または譲渡なさる場合は、この取扱説明書を必ず添付してお渡し下さい。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、すみやかに販売店にご注文下さい。
- なお、本製品は安全対策や、機能向上のため使用部品の一部変更を行う場合があります。このためイラストなどの一部が本製品と一致しないことがありますのであらかじめご了承下さい。
- また、ご不明の点やお気づきのことがございましたら、お買い上げ頂きました販売店、農協などにご相談下さい。



印付きの下記マークは、安全上、お客様にかかわる重要な項目です。
必ず、お守り下さい。



危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。



株式会社 たいしよー

TAISHO

■ 安全に作業をするために

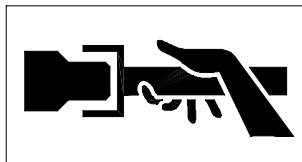


危険

P I Cカバーやチェーンカバーを外して使用しない。

【守らないと】

機械に巻き込まれて死傷事故になります。



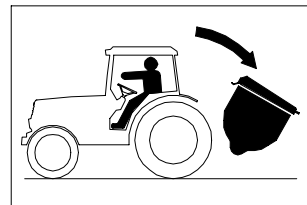
警告

散布機の装着が完全であることを確認する。

ご使用になる時は、毎回必ず3点リンクの取付けや、
抜け止め用のリンチピンが付いているか確認して下さい。

【守らないと】

散布機が脱落し、事故をまねく恐れがあります。

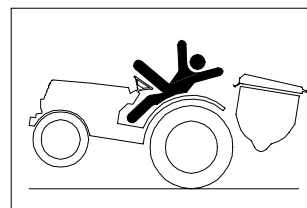


警告

散布機装着後、トラクタの前後バランスが悪い時は、
フロントウエイトを装着して下さい。
ウエイト装着後で肥料満載時、前輪荷重が総重量の
20%以下のトラクタには装着できません。
また、タイヤの許容荷重を超えないことを
確認して下さい。

【守らないと】

バランスを崩し、転倒事故を起こす恐れがあります。



警告

肥料は絶対に規定量以上は入れないで下さい。
(12ページの肥料投入方法を参照し、肥料に応じて投入量を加減して下さい)

BLD-270 : 最大積載量270kg以下

BLD-340 : 最大積載量340kg以下

BLD-500 : 最大積載量500kg以下

【守らないと】

シャーボルトが切れたり、機械が破損する恐れがあります。
また、トラクタのバランスを崩して死傷事故を起こす恐れがあります。

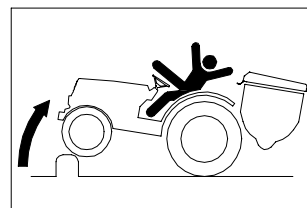


警告

散布機装着後のトラクタの運転は慎重にする。
運転時は 道路運送車両法 を順守して下さい。

【守らないと】

段差を乗り越える際にトラクタのバランスを損なったり、
散布機に無理な力が加わり破損する恐れがあります。





警告

強風時の蓋開閉や、蓋を開けたままで散布機を上下させないで下さい。

【守らないと】

不意に蓋が閉まってケガをしたり、散布機およびトラクタが破損することがあります。

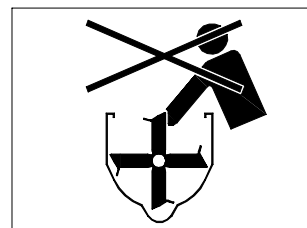


警告

混合羽根回転中は、ホッパー内に手や棒等を入れないで下さい。

【守らないと】

混合羽根に巻き込まれてケガや機械が故障することがあります。



警告

トラクタと散布機の間や、散布機の下には入らないで下さい。

【守らないと】

不意に散布機が下がったり、トラクタが動いた時に、死傷事故を起こす恐れがあります。

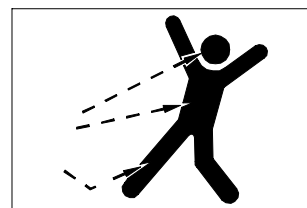


警告

散布作業中は機械に近づかないで下さい。

【守らないと】

飛散物が当たってケガをすることがあります。

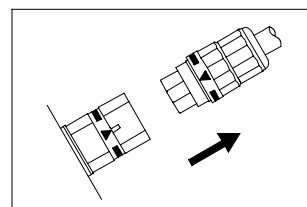


警告

保守・点検・清掃の時は必ずトラクタのエンジンを停止し、散布機のコネクタを抜いて下さい。

【守らないと】

機械が急に動き出したりしてケガをすることがあります。

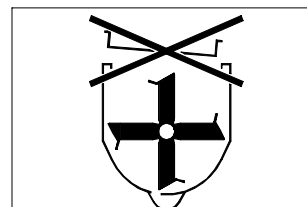


警告

ホッパー網を外しての使用は絶対しないで下さい。

【守らないと】

混合羽根に巻き込まれてケガをすることがあります。



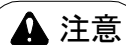
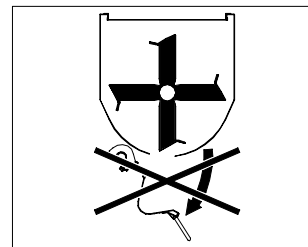


警告

底板を開けた状態で混合羽根を回転させないで下さい。

【守らないと】

混合羽根に巻き込まれてケガをすることがあります。

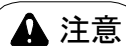
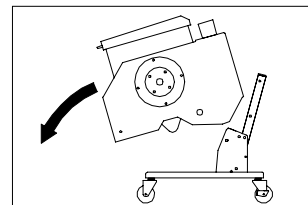


注意

散布機の着脱は、固くて平坦な場所で行って下さい。
また、スタンドの取付けは確実に行って下さい。

【守らないと】

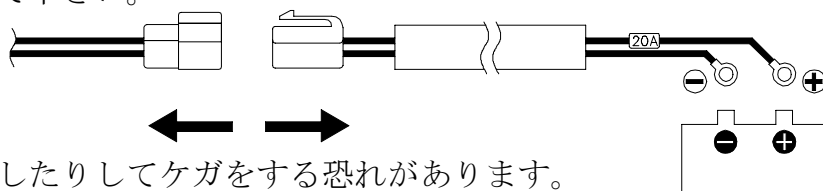
本体が落下したりしてケガをする恐れがあります。



注意

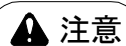
バッテリーへ接続する場合は電源カプラを外して行う。

バッテリー電源延長コードをバッテリーへ接続する場合は、電源カプラを外した状態で行って下さい。



【守らないと】

機械が急に動き出したりしてケガをする恐れがあります。



注意

コードは、エンジン等の高温部や舵取り機構等の可動部、板の端部等の鋭端部には取付けない。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故をひき起こす恐れがあります。

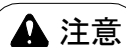


注意

散布機を上昇下降させた時、コードが突っ張ったり、緩み過ぎたりしないことを確認する。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故をひき起こす恐れがあります。

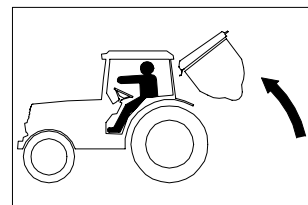


注意

散布機を上昇させた時、トラクタに当たらないことを散布作業前に確認する。

【守らないと】

散布機およびトラクタが破損することがあります。



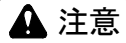
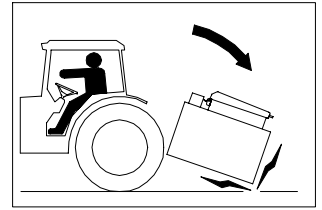


注意

散布機を急激に上昇下降させない。

【守らないと】

散布機が破損することがあります。



注意

散布機を装着したトラクタで一般道路を走行する際は、法令を順守すること。

BLD-340、BLD-500を装着して公道を走行するときは、大型特殊免許（農耕用に限る、も含む）が必要になります。状況に応じて道路運送車両法を順守して下さい。

【守らないと】

道路運送車両法に違反します。



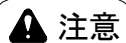
注意

散布機を使用する時は、防塵マスクなどを身に付ける。

特に、ホッパーへ肥料を投入する際には肥料の吸引を避けられるような服装で行って下さい。

【守らないと】

肥料を吸引すると健康を損なう恐れがあります。

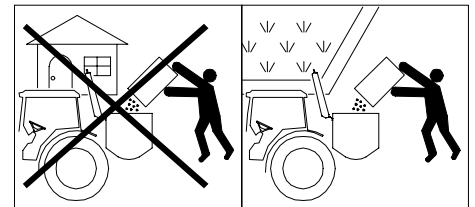


注意

肥料は圃場で入れて下さい。また肥料を入れる時は混合羽根を回転させないで下さい。

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障をまねく恐れがあります。

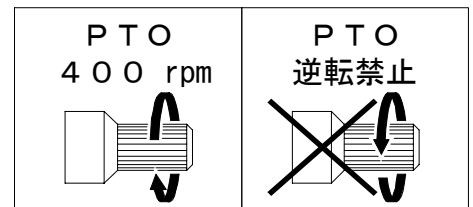


注意

PTOは400rpmで作業して下さい。
またPTOは、逆転させないで下さい。

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障をまねく恐れがあります。





注意

機械の改造禁止

散布機を改造して使用しないで下さい。

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障をまねく恐れがあります。

■ 使用上の注意

1. 下記のような肥料は散布できません。ホッパー投入前にご確認下さい。

- ・ 流れの悪い肥料 . . . 流れの悪い肥料
(流れが悪い為、残量が多く残ります。)
- ・ 混合すると危険な肥料 . . . 生石灰等は水分と反応して 発熱する恐れがあります。
- ・ 湿った肥料 . . . 握った時、固まる位水分を含んでいる肥料や
含水率20%以上の肥料は散布できません。
- ・ 尿素肥料 . . . 吸水性が高く固まりやすいため散布できません。
- ・ 貝殻石灰 . . . カキガラやホタテガラ等の貝殻石灰は、機械の負荷が高いため
散布できません。

2. 雨天時の散布作業はしないで下さい。

ホッパー内に雨が浸入し肥料が固まったり、肥料が詰まったりします。

3. 作業終了後は、ホッパー内の肥料を完全に排出して下さい。

■ 取扱上の注意

- (1) バッテリーへの電源接続は間違えないように ⊕ ⊖ を正しく接続して下さい。
- (2) 肥料の補給はシャッターが閉じた状態で、必ずエンジンおよび本体受信機の電源スイッチを切ってから行って下さい。
(本体受信機の電源スイッチは、10 ページの操作説明の項参照。)
- (3) 蓋を開けた時は、蓋が不意に閉じないよう必ず蓋ストッパーでロックして下さい。
(ロック方法は、12 ページの肥料投入方法の項参照。)
- (4) 肥料の投入は必ず圃場で行って下さい。
(肥料を入れたまま **散布せずに長時間 <15 分以上> 走行すると、肥料が固く締まってシャーボルトが切れる**ことがありますので注意して下さい。)
- (5) ホッパー網に勢いよく肥料を載せないで下さい。網が変形してしまいます。
- (6) **規定量以上に肥料を入れないで下さい。肥料が溢れたり、シャーボルトが切れたりします。**
(12 ページの肥料投入方法の項を参照し、肥料に応じて投入量を加減して下さい。)
BLD-270 : 最大投入量 270 kg 以下
BLD-340 : 最大投入量 340 kg 以下
BLD-500 : 最大投入量 500 kg 以下
- (7) 肥料混合作業時は蓋を閉じて下さい。
- (8) PTO の回転は **400 rpm** で作業して下さい。
- (9) シャーボルトが切れた場合は、付属のシャーボルトに交換し、**過負荷の原因 (異物混入や肥料の入れ過ぎ、PTO の高速回転等) を取り除いてから作業を再開して下さい。**
また、シャーボルトに使用する六角ボルトは、**必ず指定の六角ボルトを使用して下さい。**
BLD-270、340 : M5 × 35 強度区分 : 4. 8
BLD-500 : M6 × 35 強度区分 : 4. 8
指定以外のボルトを使用すると、安全装置が正常に作動せずに機械が破損したり、故障する恐れがあります。(15 ページのシャーボルト交換手順の項参照。)
- (10) トラクタの走行速度は、時速 **8 km 以下** を厳守して下さい。
- (11) ヒューズが切れた場合は、**ショートまたは過負荷の原因 (シャッターへの肥料の付着等) を取り除いてからヒューズを交換して下さい。** また、ヒューズは必ず指定のものを使用して下さい。(20 A 平型ヒューズ、10 A 管ヒューズ)
- (12) バッテリー延長コードを使用して電源を取っている場合、本体受信機の電源スイッチを「入」にしたまま保管すると、トラクタのバッテリーが上がってしまいますので注意して下さい。
- (13) シーズンの作業が終わったら、ホッパーやシャッターに付着した肥料をよく洗い落として下さい。(洗浄後よく乾燥させて下さい。)
- (14) 保管は屋内で行って下さい。特に電気系統に水がかからないように注意して下さい。

■ 組立手順

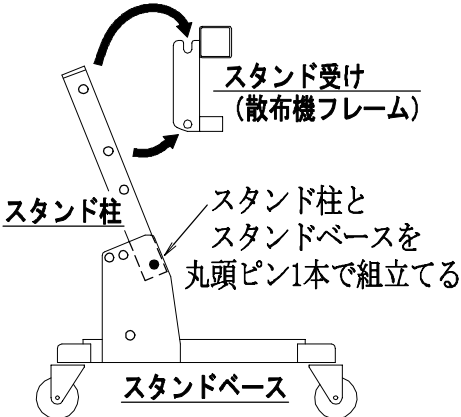
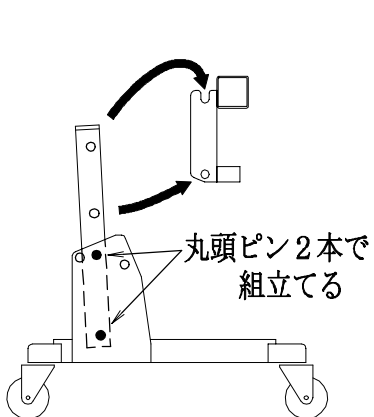
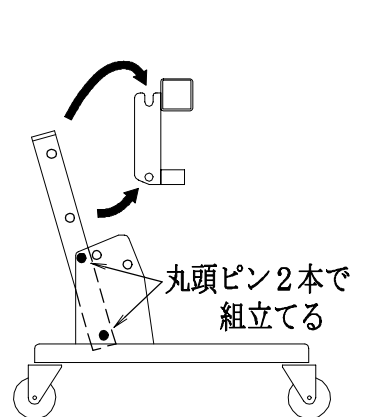
A. トラクタへの装着

※肥料を入れたまま、スタンドを使用しないで下さい。

※散布機の着脱は、固くて平坦な場所で行って下さい。

※スタンドで移動する時は、段差のある所や悪路では無理に押しったりしないで下さい。

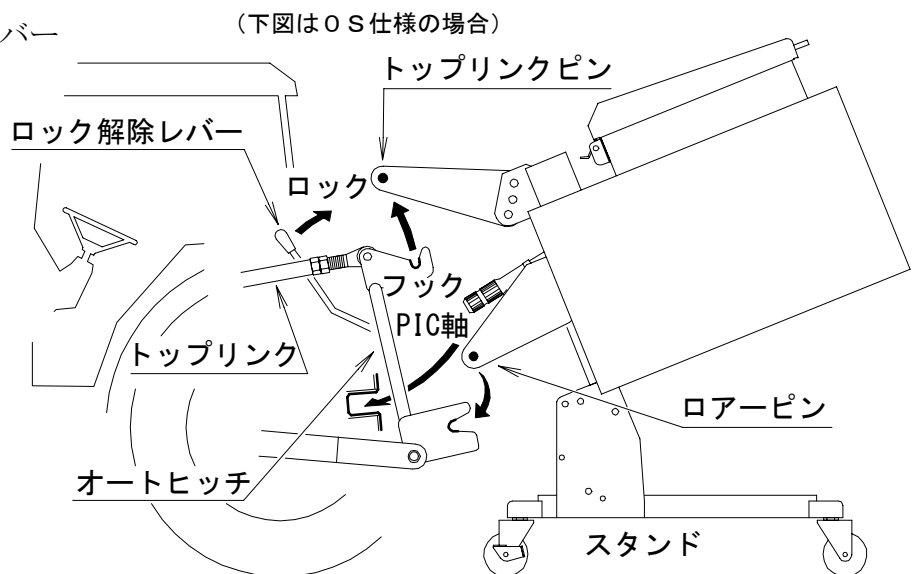
・ 散布機のスタンドは、散布機の装着型式に合わせた状態でお使い下さい。

0 S, 0 L	1 S	A 1, A 2, B, BM
		

オートヒッチ装着 (0S, A1, A2, B, BM, 0L仕様) の場合

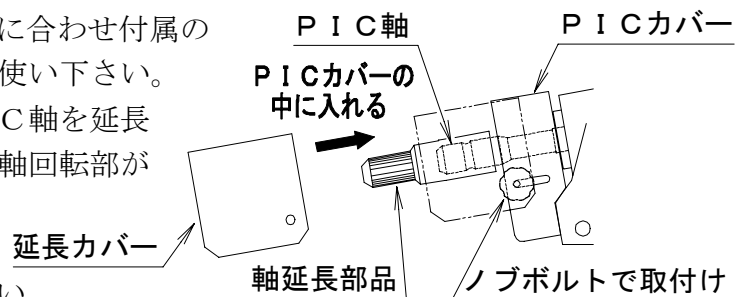
- (1) オートヒッチのロック解除レバーをロック側に倒しておきます。自動ロック機構でない場合は、装着後にロックして下さい。

- (2) オートヒッチ上部のフックで散布機のトップリンクピンをすくい上げます。
自動的にロアーピンとPIC軸も結合します。うまく結合できない場合は、トップリンクの長さを調整して下さい。



- (3) 左右のロアーピンが確実にロックされていることを確認して下さい。

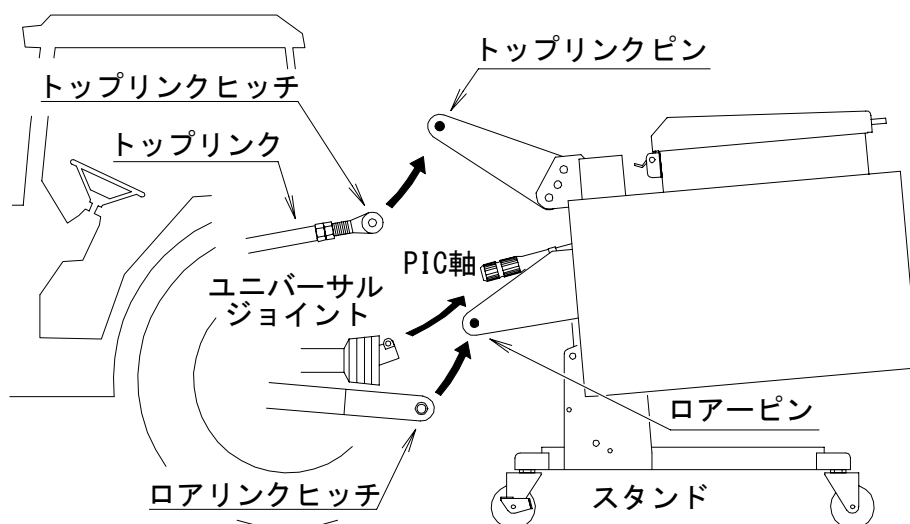
- (4) 0S、0L仕様の場合、オートヒッチに合わせ付属のガイドカラーとトップリンクカラーをお使い下さい。
また0S仕様の場合、他部品にてPIC軸を延長した時は、付属の延長カバーを取付け、軸回転部が隠れるようにして下さい。



- (5) 散布機装着後、スタンドを外して下さい。

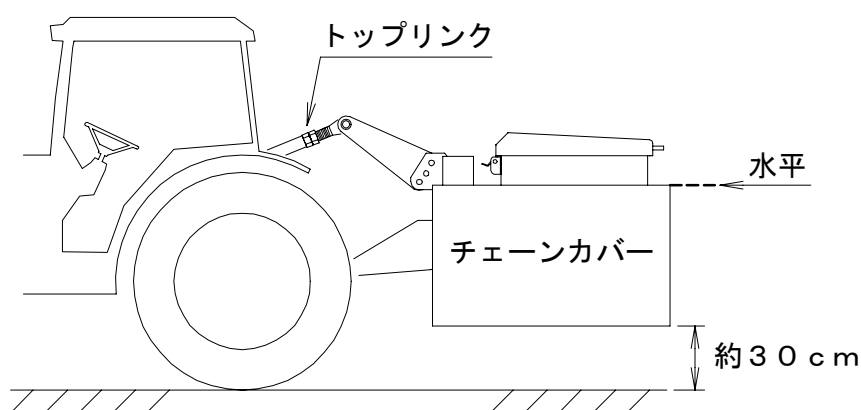
手動装着（1S仕様）の場合

- （１）左右のロアリンクヒッチにローアピンを通して取付けます。
- （２）トップリンクの長さを変えたりしながら、トップリンクヒッチにトップリンクピンを通して取付けます。
抜け止めの為、トップリンクピンと左右のローアピンにリンチピンを取付けます。
- （３）P I C軸にユニバーサルジョイントを取付けます。ユニバーサルジョイントが長い場合は、適当な長さに切ってお使い下さい。（別紙のユニバーサルジョイントの取説に記載）
- （４）ジョイントカバーが回転しないよう、付属のチェーンを散布機またはトラクタに取付けて下さい。
- （５）散布機装着後、スタンドを外して下さい。



B. 姿勢調整

- （１）散布機を上昇させた時、トラクタのキャビンやボディに当たらないことを確認して下さい。
当たる時は、３点リンクの高さ規制をして下さい。
- （２）散布機を上昇させた時、ユニバーサルジョイントの外れがないことを確認して下さい。
- （３）作業時にチェーンカバーを引きずらないような高さ（地上高約30cm）で水平姿勢になるよう、トラクタの油圧上下やトップリンクの長さを調整して下さい。
- （４）散布機が横揺れし過ぎないように、左右のチェックチェーンを適度に張って下さい。

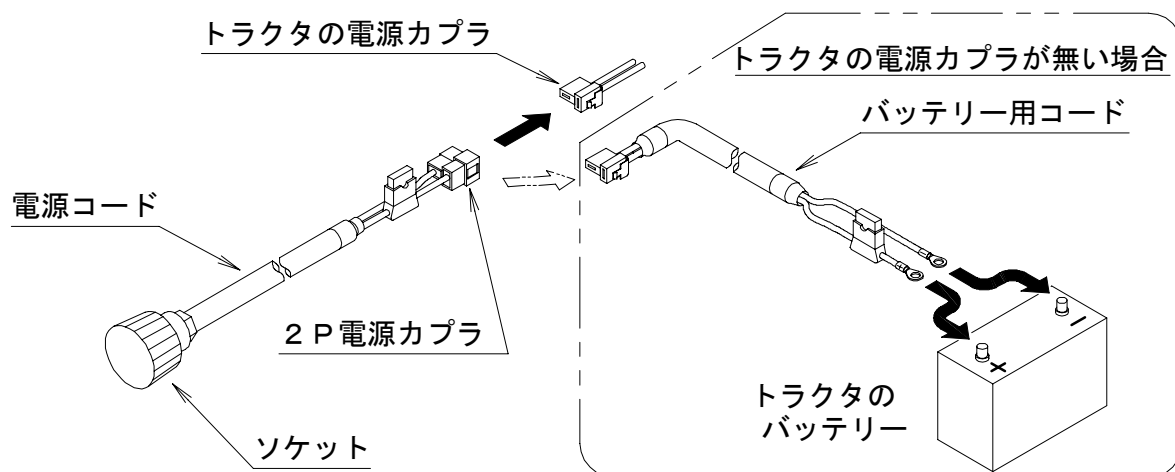


C. 配線およびリモコンホルダーの取り付け

(1) 電源コードの電源カプラをトラクタの電源カプラに接続して下さい。

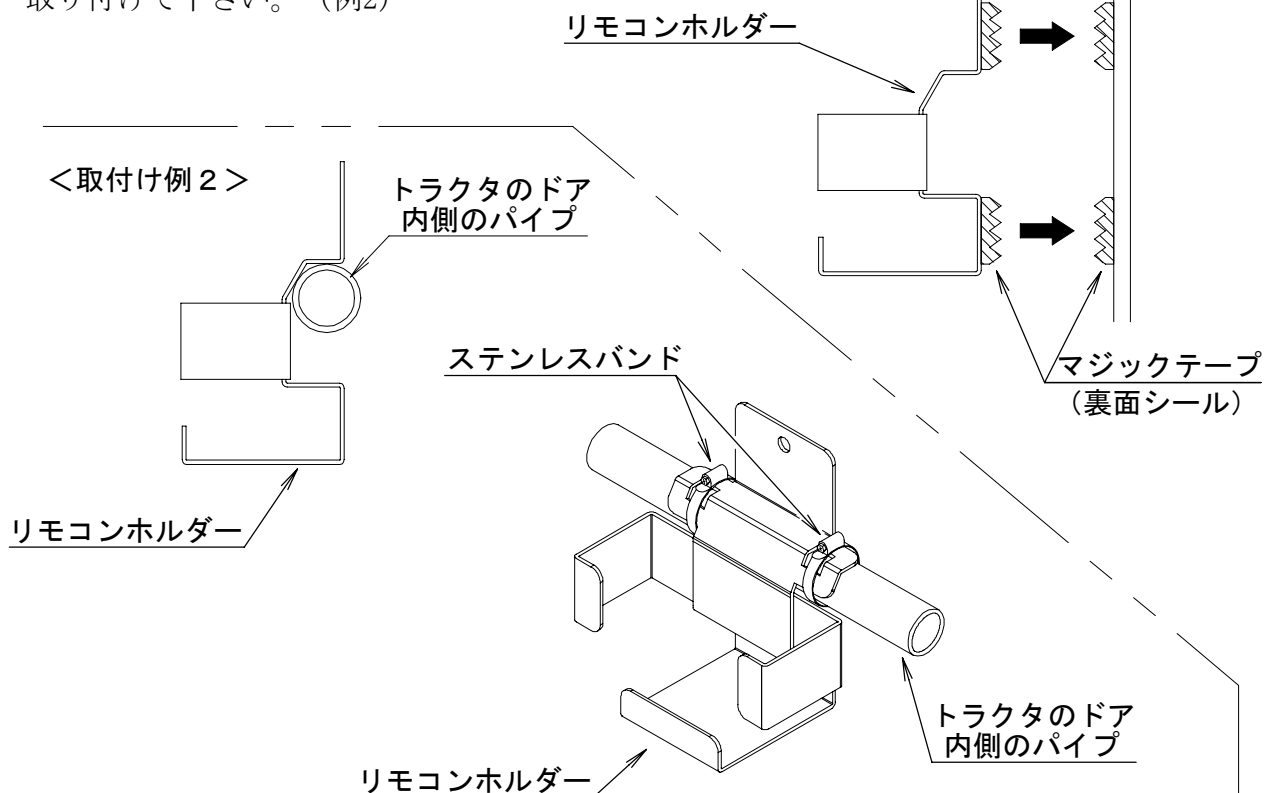
トラクタの電源カプラはシート後部に有ります。(トラクタによって、取り出し位置が
違うものや、電源カプラの無いものもあります。)

トラクタの電源カプラが無い場合は、付属のバッテリー延長コードをトラクタのバッテリー
に接続し、そのカプラを電源コードの電源カプラに接続します。

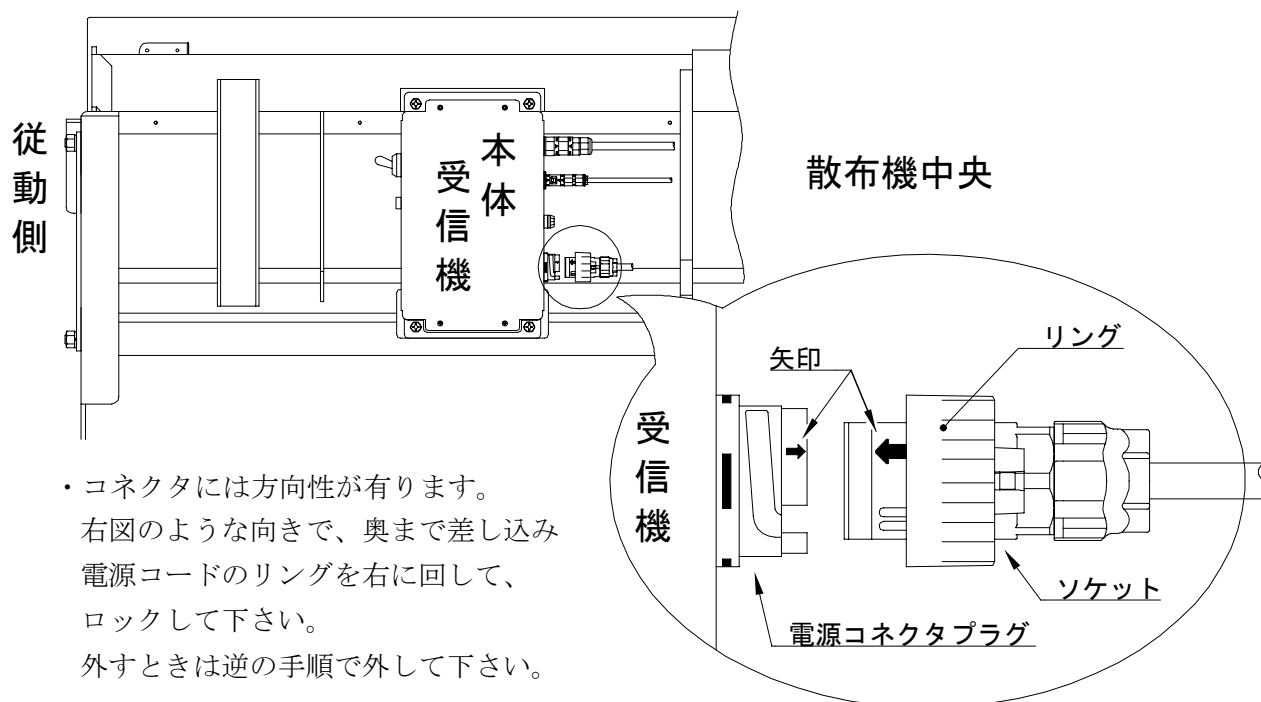


(2) リモコンホルダーを運転席の操作し易い所に取り付けて下さい。

トラクタのフェンダーの取手などを利用して取り付けると
便利です。また、ボルト、ナット等で取り付けられない
場合は、付属のマジックテープを使い、キャビンの
ガラス等の平らな面に取り付けたり (例1)、付属の
ステンレスバンドを使ってドア内側のパイプに
取り付けして下さい。 (例2)

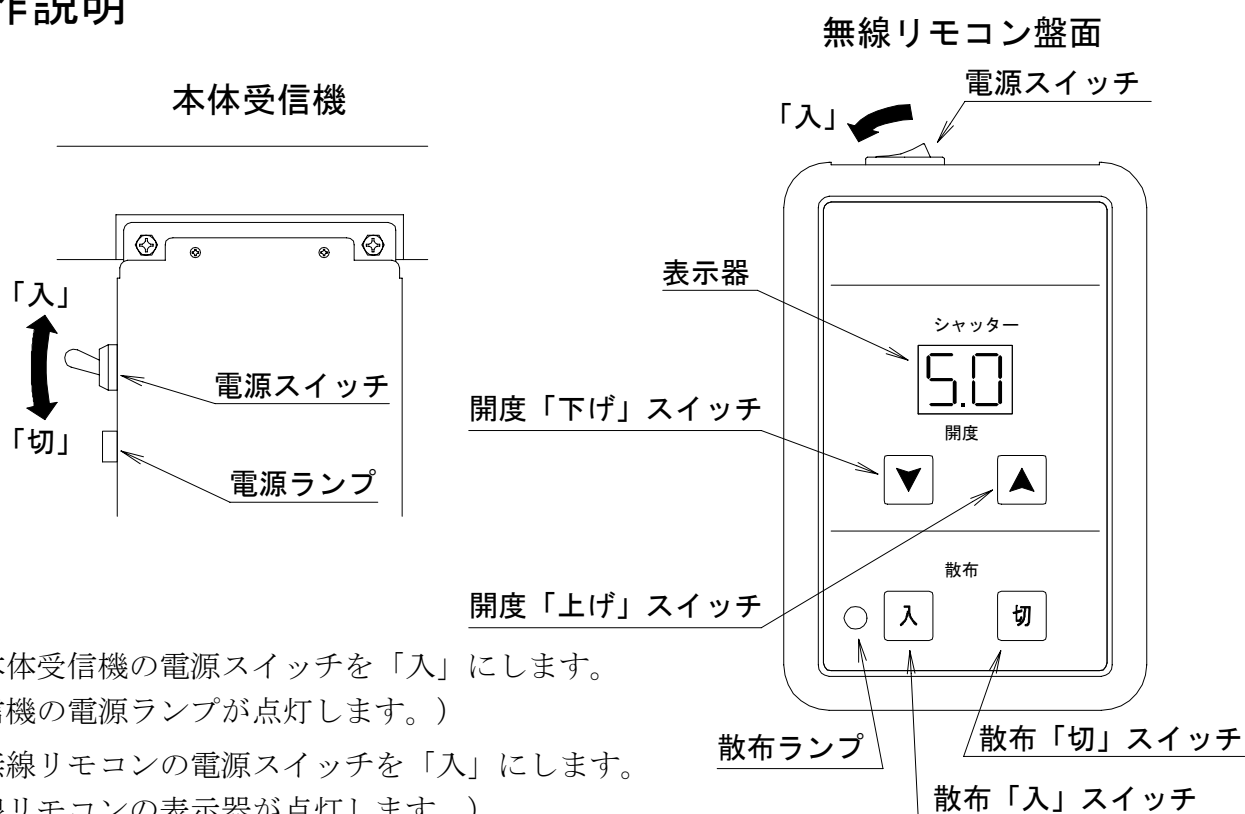


- (3) 散布機をトラクタに装着後、電源コードのソケットを本体受信機の電源コネクタプラグに接続します。本体受信機はトラクタ装着時に運転席から見て散布機左側（従動側）にあります。



- (4) コードの取付けは、付属のリピータイ等でトラクタの高温部や舵取り機構等の動く箇所を避けて取付けて下さい。（リピータイ7本付属）また、散布機を上下させた時にコードが突っ張ったり、緩み過ぎてタイヤに巻き込まれたりしないような長さで固定して下さい。

■ 操作説明



- (1) 本体受信機の電源スイッチを「入」にします。
(受信機の電源ランプが点灯します。)

- (2) 無線リモコンの電源スイッチを「入」にします。
(無線リモコンの表示器が点灯します。)

※無線リモコン動作の電池は別の袋に入っています。
「次のページへ」

※無線リモコンは
単3乾電池4本で動作します。

(3) 肥料の散布量の調節を、開度スイッチで可変します。

開度は13ページ『シャッター開度の決め方』を参考にして決めて下さい。

※散布目盛りの数値は無線リモコンの開度（シャッターの開度）と同じ意味になります。

※開度の可変は無線リモコンの開度「上げ」スイッチと、開度「下げ」スイッチで行います。

表示器の数値は開度「上げ」または「下げ」スイッチを押して離すと「0.1」ずつ変わります。
スイッチを長押しすると「1.0」ずつ変わります。

※無線リモコンの開度の可変範囲は全閉「0.0」～全開「10.」まで、「0.1」ずつ可変できます。

(4) 肥料の散布および停止は電源スイッチを「入」にしたまま、

散布「入」スイッチを押すと散布ランプが点灯し、表示器の開度までシャッターが開いて
肥料の散布が開始されます。

また、散布「切」スイッチを押すと散布ランプが消灯し、シャッターが全閉して
肥料の散布が停止します。

※無線リモコンの開度の可変は散布「入／切」どちらの状態でも行うことができます。

(5) 作業が終了したら無線リモコンおよび本体受信機の電源スイッチを「切」にして下さい。

※シャッターを閉じる前に無線リモコンまたは本体受信機の電源スイッチを「切」にすると、
シャッターが開いたまま肥料が停止されない状態になりますので注意して下さい。

※散布「入」状態で本体受信機の電源スイッチを「切」にすると、再度、電源スイッチを
「入」にしたときに、すぐにローターが回転し始めるので注意して下さい。

※本機は自動電源OFF機能はついておりません。付属のバッテリー延長コードを使用して
電源を取っている場合、本体受信機の電源が入ったままになります。

その状態で保管されますと、トラクタのバッテリーが上がってしまいます。

また、トラクタの外部電源取り出しから電源を取っている場合でも、エンジン始動時に
散布機が急に動くことがありますので、使用後は確実に電源を「切」にして下さい。

※無線リモコンおよび本体受信機は完全防水仕様になっていません。

水の中に落とした場合や、水がかかった場合は、内部が完全に乾いていることを
確認してから操作して下さい。

無線リモコン裏面

■ 電池の交換

※無線リモコンの表示器が点滅したら電池交換の目安です。

(点滅後、数時間動作可能。)

(1) 無線リモコンの電源スイッチを「切」にします。

(2) 電池フタの矢印を軽く押しながら、下にスライドします。

(3) 単3乾電池（4本）を取り替えます。

(市販の乾電池及び充電式の乾電池もご使用いただけます。)

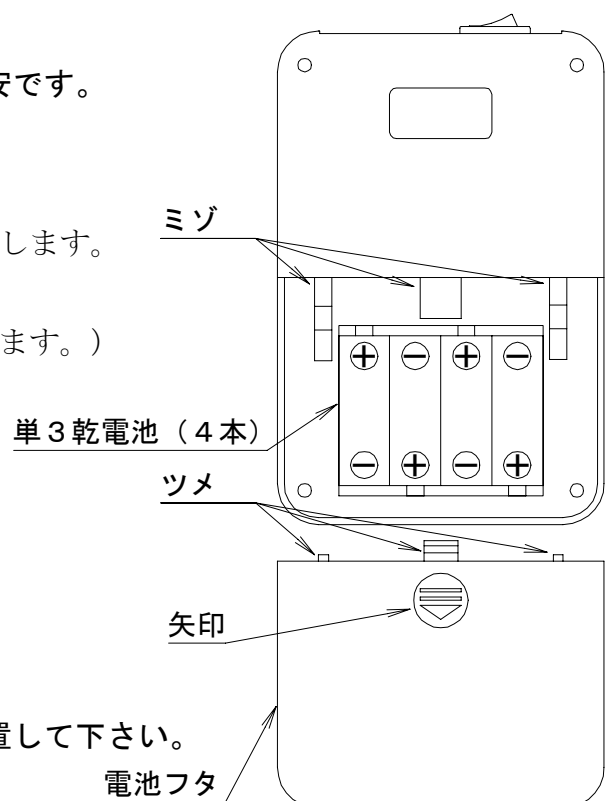
※濡れた手で交換を行わないで下さい。

故障の原因になります。

※乾電池を交換する際は、新しいものと古いものとの
組合せはしないで下さい。

※種類の違う乾電池の組合せはしないで下さい。

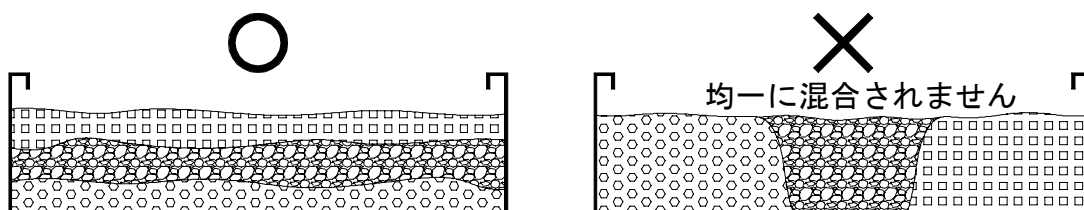
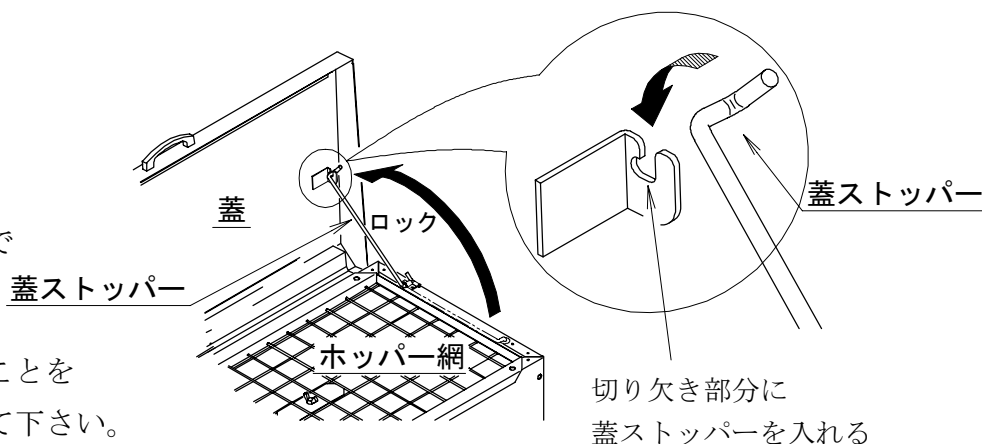
※液漏れの液が体に付着したときは、きれいな水で
洗い流して下さい。目に入った場合は、こすらずに
きれいな水で洗い流した後、すぐに医師に相談し処置して下さい。



- ※乾電池の ⊕ ⊖ を逆に接続すると、電源スイッチを「入」にしても表示器は点灯しません。
 そのまま電源スイッチを「入」にすると、無線リモコンが故障することがあります。
- (4) 電池フタのツメと、無線リモコンのミゾの位置を合わせ、上にスライドさせます。
 “カチッ”と音が鳴るまで押し込んで、電池フタが浮き上がらないことを確認して下さい。

■ 肥料投入方法

- (1) 蓋を開け、不意に蓋が閉じないよう蓋ストッパーでロックして下さい。
- (2) シャッターが閉じていることを確認してから肥料を投入して下さい。
 その際、ホッパー網に勢いよく肥料を載せないで下さい。
- (3) 混合すると危険な肥料 (生石灰等) や湿った肥料 (握って固まるもの) は使用しないで下さい。
 尿素肥料は吸水性が高く固まりやすいため散布できません。
 また、カキガラやホタテガラ等の貝殻石灰は、機械の負荷が高いため散布できません。
 使用する肥料それぞれの取扱注意を良く読んでから使用して下さい。
- (4) 肥料を入れる時は、混合羽根を回転させないで下さい。
- (5) 数種類の肥料をホッパーに入れる時、上下の層になるように入れて下さい。
 左右に分けて入れると、均一に混合されません。



- (6) 肥料は絶対に規定量以上は入れないで下さい。

BLD-270 : 最大積載量 270kg以下

BLD-340 : 最大積載量 340kg以下

BLD-500 : 最大積載量 500kg以下

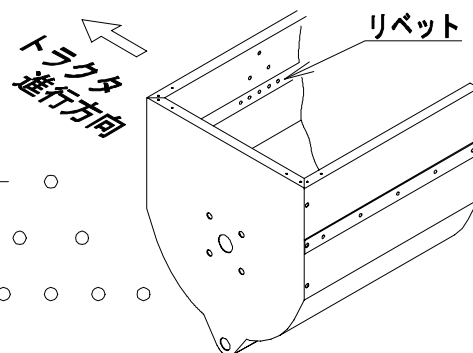
ホッパーに取付けてあるリベットを目安に投入量を加減して下さい。

軽い肥料	米ぬか 油粕 乾燥堆肥 など
普通の肥料	粒状化成 粒有機ペレット けいふん など
重い肥料	ようりん ケイカル など

軽い 肥料はここまで →

普通 の肥料はここまで →

重い 肥料はここまで →



■ シャッター開度（散布目盛り）の決め方

A. 散布表を用いない方法

・下記①から⑤の手順でシャッター開度を決めて下さい。

① 作業時間

下表を参考に10アール（1反）当たりの作業時間を求めます。

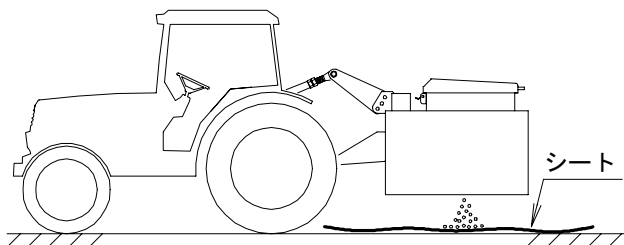
（例）車速が 4 [Km/h] の場合、
BLD-500 での作業時間は 6 [分] となります。

車 速 [Km/h]		1	2	2.5	3	3.5	4	5	6	7	8
型 式	BLD-270	38分	19	15	13	11	9	8	6	5	5
	BLD-340	30	15	12	10	9	8	6	5	4	4
	BLD-500	25	13	10	8	7	6	5	4	4	3

（ターン等の時間は含んでおりません。）

③ テスト散布

地面に敷いたシートの上に任意のシャッター開度で1分間散布します。



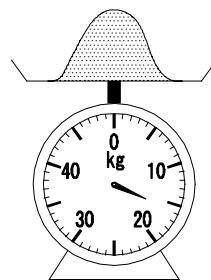
② 1 分間当たりの散布量

10アール（1反）当たりの散布したい肥料の重さを上記作業時間で割って、1分間当たりの散布量を計算します。

（例）散布したい肥料が 120 [Kg]、作業時間が 6 [分] の場合、1分間当たりの散布量は、
 $120 \div 6 = 20$ [Kg] と、なります。

④ 計量

散布した肥料を集め、重さを量ります。

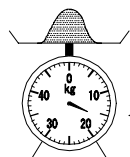


⑤ 散布目盛り決定

1分間当たりの散布量（計算値）とテスト散布した肥料の重さを比較して、同じ位になるようシャッター開度を変え、テスト散布を繰り返してシャッター開度を決定します。

（例）1分間当たりの散布量（計算値）が 20 [Kg] で、

テスト散布した肥料の重さが



20 [Kg] 未満



シャッター

4.0

開度

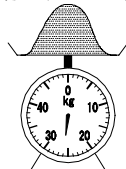


開度を
大きくする



もう一度 テスト散布

テスト散布した肥料の重さが



20 [Kg] 超



シャッター

6.0

開度

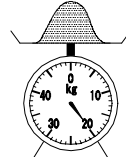


開度を
小さくする



もう一度 テスト散布

テスト散布した肥料の重さが



20 [Kg]



シャッター

5.0

開度



圃場で 散布作業開始

B. 散布表を用いる方法

(1) 散布する肥料に合った表（表1～3）を使い、トラクタの作業速度（車速）と希望の散布量（10アール当たり）から散布目盛りを決定して下さい。

※肥料の形状、比重、湿り具合等によって散布量は変わります。

表で求めた目盛りは目安ですので、必ずテスト散布後に目盛りを決めて下さい。

※混合肥料の場合は、混合比率の1番多い肥料の散布目盛表を目安にして下さい。

※散布目盛りは、PTO回転が400[rpm]時での値となっています。

表1 散布目盛り（粒状肥料用）

（例）トラクターの車速が4[Km/h]で、散布する肥料の量が140[Kg]の場合、

目盛りは3.9となります。

参考肥料：化成肥料8-8-8

粒状肥料用		10アール当たりの散布量												
		60 Kg	80 Kg	100 Kg	120 Kg	140 Kg	160 Kg	180 Kg	200 Kg	240 Kg	300 Kg	400 Kg	500 Kg	600 Kg
トラクタ の車速 [Km/h]	8.0	3.8	4.0	4.2	4.3	4.5	4.6	4.8	4.9	5.3	5.8	7.2	7.9	9.3
	7.0	—	3.9	4.1	4.2	4.3	4.5	4.6	4.7	5.0	5.5	6.5	7.4	8.1
	6.0	—	3.8	3.9	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.8	5.1	5.8	7.0	7.5
	5.0	—	—	3.8	3.9	4.1	4.2	4.2	4.3	4.5	4.8	5.3	5.9	7.0
	4.0	—	—	—	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.5	4.9	5.3	5.8
	3.5	—	—	—	—	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.4	4.7	5.1	5.5
	3.0	—	—	—	—	—	3.8	3.9	3.9	4.1	4.2	4.5	4.8	5.1
	2.5	—	—	—	—	—	—	—	3.8	3.9	4.1	4.3	4.6	4.8
	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	3.8	3.9	4.2	4.3	4.5
	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.8	3.9

表2 散布目盛り（けいふん用）

参考肥料：粒状醗酵けいふん

けいふん用		10アール当たりの散布量									
		190 Kg	200 Kg	240 Kg	270 Kg	300 Kg	350 Kg	400 Kg	450 Kg	500 Kg	600 Kg
トラクタ の車速 [Km/h]	8.0	6.0	6.2	7.0	7.6	8.3	—	—	—	—	—
	7.0	5.7	5.8	6.4	6.9	7.5	8.5	—	—	—	—
	6.0	5.5	5.6	5.9	6.2	6.7	7.5	8.3	—	—	—
	5.0	—	—	5.6	5.8	6.0	6.6	7.2	7.8	8.7	—
	4.0	—	—	—	—	5.6	5.8	6.2	6.7	7.2	8.3
	3.0	—	—	—	—	—	—	5.6	5.8	6.0	6.7

表3 散布目盛り（ペレット用）

参考肥料：根菜専用808（直径4mm×6mm）

ペレット用		10アール当たりの散布量												
		60 Kg	80 Kg	100 Kg	120 Kg	140 Kg	160 Kg	180 Kg	200 Kg	240 Kg	300 Kg	340 Kg	400 Kg	500 Kg
トラクタ の車速 [Km/h]	8.0	4.3	4.5	4.8	5.0	5.2	5.4	5.7	5.9	6.6	7.9	—	—	—
	7.0	4.2	4.4	4.6	4.8	5.0	5.2	5.4	5.6	6.0	7.0	7.8	—	—
	6.0	4.1	4.3	4.5	4.6	4.8	5.0	5.2	5.3	5.7	6.3	6.9	7.9	—
	5.0	4.0	4.2	4.3	4.5	4.6	4.8	4.9	5.1	5.3	5.7	6.0	6.8	8.7
	4.0	3.9	4.0	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.8	5.0	5.3	5.6	5.9	6.8
	3.0	—	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.9	5.1	5.3	5.7

■ 散布作業

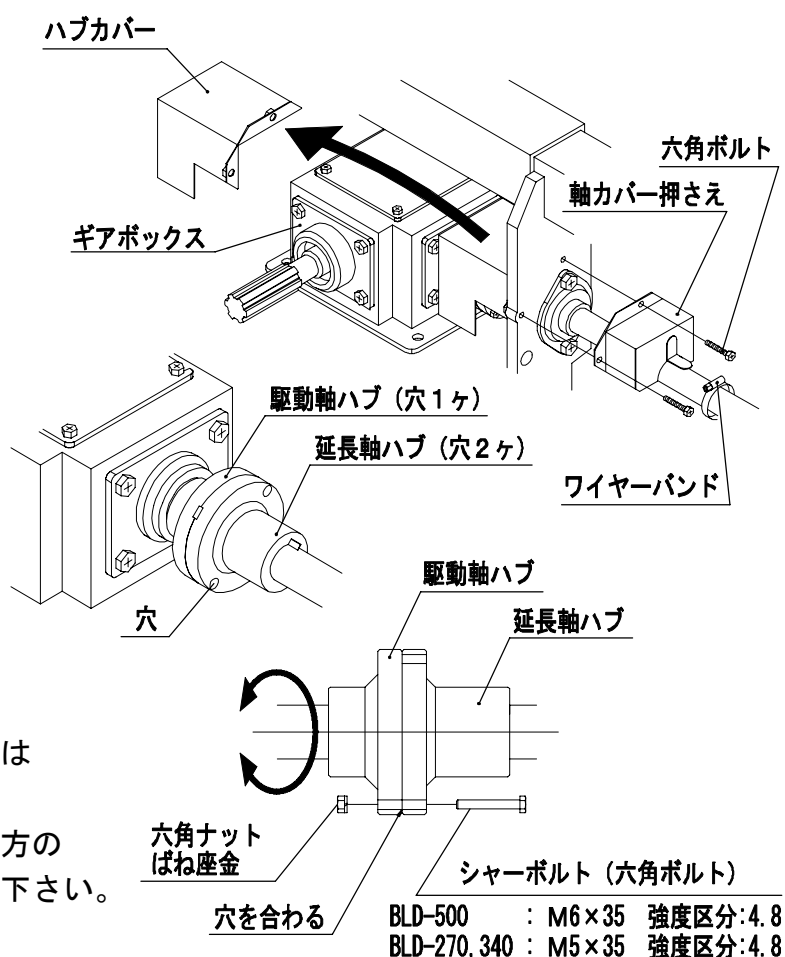
- (1) シャッター開度を設定します。(13、14ページのシャッター開度の決め方の項参照。)
- (2) ホッパーへの肥料投入後、P T O回転を徐々に上げ、混合羽根を回転させて肥料を混合します。(P T O回転：約400rpm)
- (3) 2分程で大体の混合を確認してから散布作業を始めます。
散布前の混合は4分以上しないで下さい。 散布せずに長時間混合すると、肥料が砕けたり、固まってシャッター穴が塞がれたりします。
構造上、肥料を混合した後の最初の散布開始時のみ、若干、混ざっていない肥料が散布される場合があります。
- (4) 散布作業は、混合羽根を回転させたまま行います。
肥料の繰り出し・停止は、無線リモコンの散布スイッチで行います。
- (5) 散布作業中や走行中は散布機下部が地面に当たらないようなスピードにして下さい。
(時速8Km以下)
- (6) 散布作業中にヒューズが切れた場合は、その原因(コード圧迫によるショート、ホッパー内への異物混入や肥料の入れ過ぎによるモーター過負荷等) を取り除いてからヒューズを交換して下さい。
本体受信機 10A管ヒューズ(ローター用) (予備2個)
電源コード 20A平型ヒューズ(シャッター、ローター用) (予備1個)
- (7) 散布作業中にシャーボルトが切れた場合は、シャーボルトを交換し、その原因(ホッパー内への異物混入や肥料の入れ過ぎ、P T O回転数の上げ過ぎ等) を取り除いてから作業を再開して下さい。(予備シャーボルト 2本付属)

■ シャーボルト交換手順

※シャーボルト交換後、異常負荷の原因(異物混入や肥料の入れ過ぎ等)を取り除いてから作業を再開して下さい。

- (1) エンジンを停止し、P T OのギアをN(ニュートラル)に入れて下さい。
- (2) 軸カバー押さえのワイヤーバンドと六角ボルトを外して、軸カバー押さえとハブカバーを外す。
- (3) 折れたシャーボルトの破片を取り除いて下さい。
- (4) 駆動軸ハブを回して、駆動軸ハブと延長軸ハブの穴を合わせて下さい。

※駆動軸ハブには穴が1ヶ、延長軸ハブには穴が2ヶあります。
延長軸ハブの穴2ヶのうち作業しやすい方の穴を選んで、駆動軸ハブの穴を合わせて下さい。



(5) 新しいシャーボルト（六角ボルト）を差し込み、六角ナットとばね座金でボルトを固定して下さい。

※予備のシャーボルトはチェーンカバーの裏にあります。

※シャーボルトに使用する六角ボルトは、必ず指定の六角ボルト

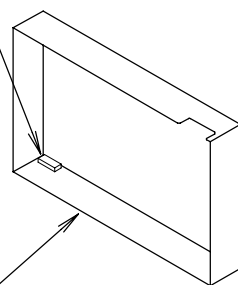
（BLD-270、340は「M5×35 強度区分4.8」を

BLD-500は「M6×35 強度区分4.8」）を使用して下さい。

指定以外のボルトを使用すると、安全装置が正常に働かずに機械が破損したり故障する恐れがあります。

シャーボルト（予備）

チェーンカバー



■ 底板の開閉方法

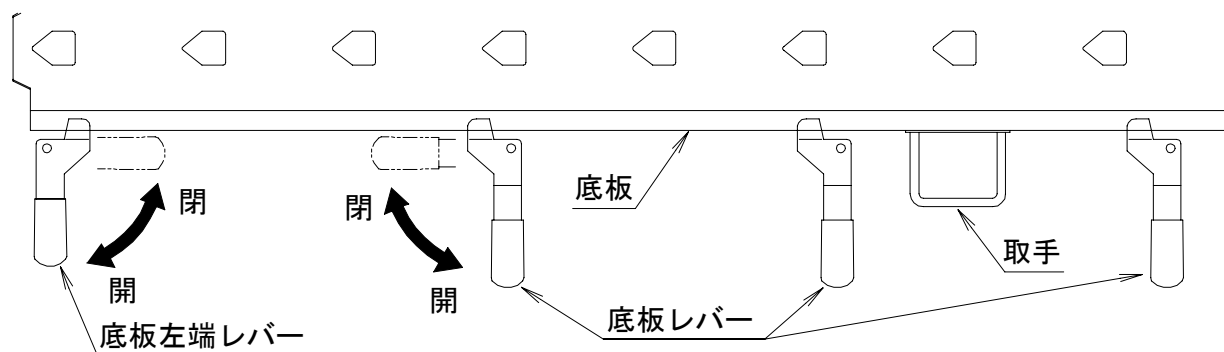
（ホッパー内の掃除の時、底板を開けて残量肥料排出ができます。）

※底板は、残量肥料排出や手入れの時以外は開けないで下さい。

(1) エンジンを停止し、PTOのギアをN（ニュートラル）に入れて下さい。

(2) 本体受信機の電源スイッチを切り、電源コードを抜いて下さい。

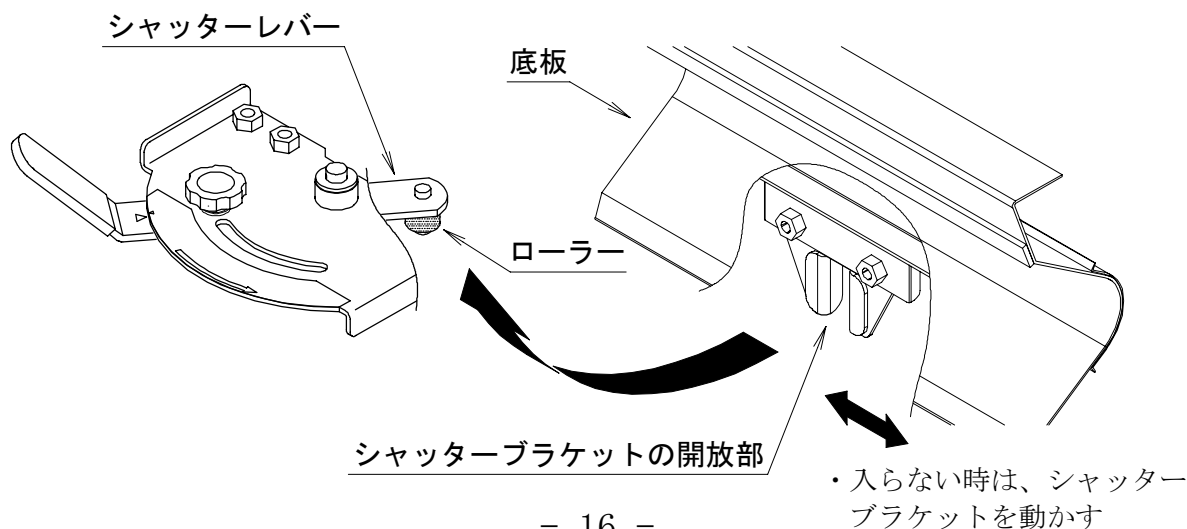
(3) 底板を開ける時は、底板の取手から遠い方のレバーから順に開け、最後のレバーは必ず、取手を持ちながらゆっくりと底板を開けて下さい。（底板は一気に全開にならないよう、ワゴムとスプリングフックでフレームにつながっていますので、全開にする時はフレームからスプリングフックを外して下さい。）



(4) 底板を閉める時は、ホッパーと底板の間に肥料が挟まらないよう、きれいに肥料を取除いて下さい。

また底板を持ち上げた時、シャッターブラケットの開放部にシャッターレバーのローラーが入り込むようにして、取手に近い方のレバーから順に閉めて下さい。

（入らない時は、シャッターブラケットを手で動かして下さい。）

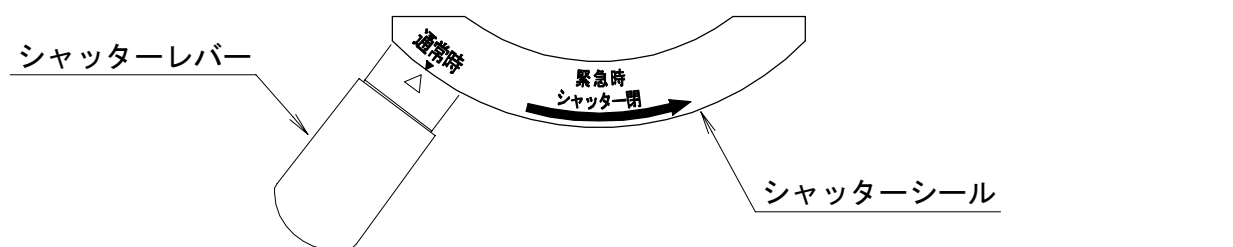


■ 緊急時肥料停止方法

本体受信機が故障したり、ケーブルが断線して、電氣的にシャッターが閉まらない場合、シャッターレバーにより肥料を停止して下さい。

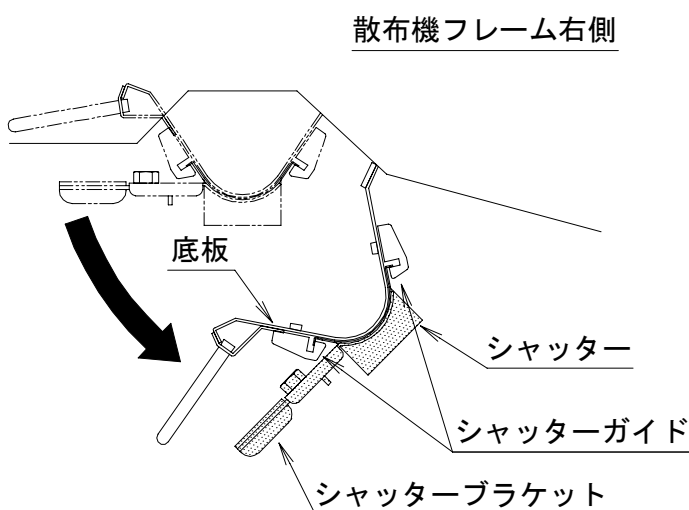
- (1) ノブボルトを外します。
- (2) シャッターレバーを止まるところまで矢印の方向に動かし、ノブボルトを締め付けます。
- (3) シャッターが閉まり、肥料の散布が停止します。

※これは緊急時の対応ですので、通常時はシャッターレバーに開いている三角穴の頂点を「通常時」の位置に戻して下さい。



■ シャッターの外し方

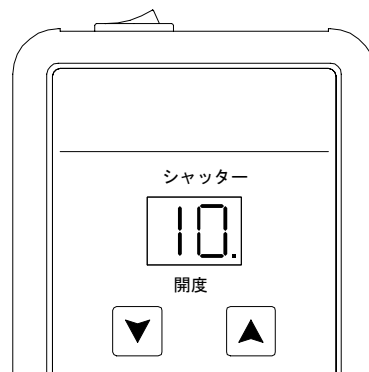
- (1) 底板を開けます。(16ページの底板の開閉方法の項参照。)
- (2) シャッターブラケットが接続されたままシャッターをゆっくり散布機右側(手前)に引き抜きます。
- (3) きつくてシャッターが抜けない場合は、シャッターガイドを取付けているボルトを少し緩めてから引き抜いて下さい。



■ シャッター開度の調整方法

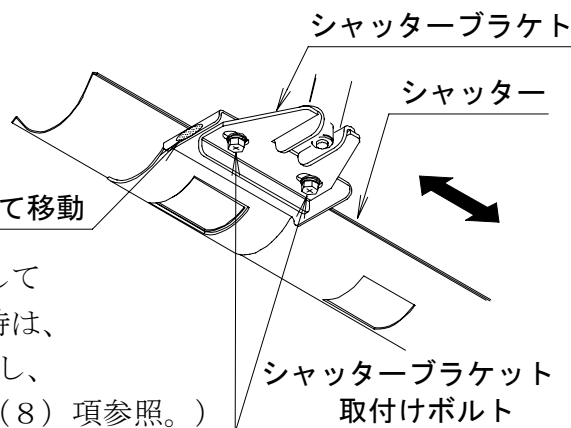
(シャッター穴の開度がずれてきた時に行ってください。)

- (1) 無線リモコンと本体受信機の電源を入れ、散布スイッチを「入」にして開度を全開(「10.」)にします。シャッターが開いた後、本体受信機の電源を切ります。



- (2) 穴の開度が全開になるよう、シャッター
ブラケットの取付けボルトを緩め、シャッターを
動かします。シャッターのブラケット取付け部の
側面をプラスチックハンマー等で
軽く叩いて移動させて下さい。

ここを軽く叩いて移動



- (3) 本体受信機の電源を入れ、散布スイッチを「切」にして
シャッターを閉じた時に、穴の開度が全開にならない時は、
基板ユニットのボリューム（VR4）を少し時計方向に回し、
シャッター可動範囲を広げて下さい。（24ページの（8）項参照。）
可動範囲を変えると、全開の調整も再度必要になります。
その後、22ページから24ページの（4）～（9）の作業を行って下さい。

※本体受信機の電源を入れたとき、ローターが動くので注意して下さい。

■ 底板フェルト交換方法

- (1) シャッターの滑り改善と肥料漏れ防止の為、底板の外側にフェルトが貼ってあります。
シャッターを閉じていても肥料が漏れる場合はホッパー内の肥料を全部出し、シャッターの
穴を確認して下さい。
- (2) シャッターの穴が閉じていても肥料が漏れる時は、シャッターを外して底板フェルトが
破れていないか確認して下さい。破れている場合は、その箇所のフェルトをきれいに
剥がして新しいものに貼り替えて下さい。
(底板フェルトは3種類あります。P.36 部品表 229, 230, 231 から必要な底板フェルトを
選んでご注文下さい。)

■ 管ヒューズの交換方法

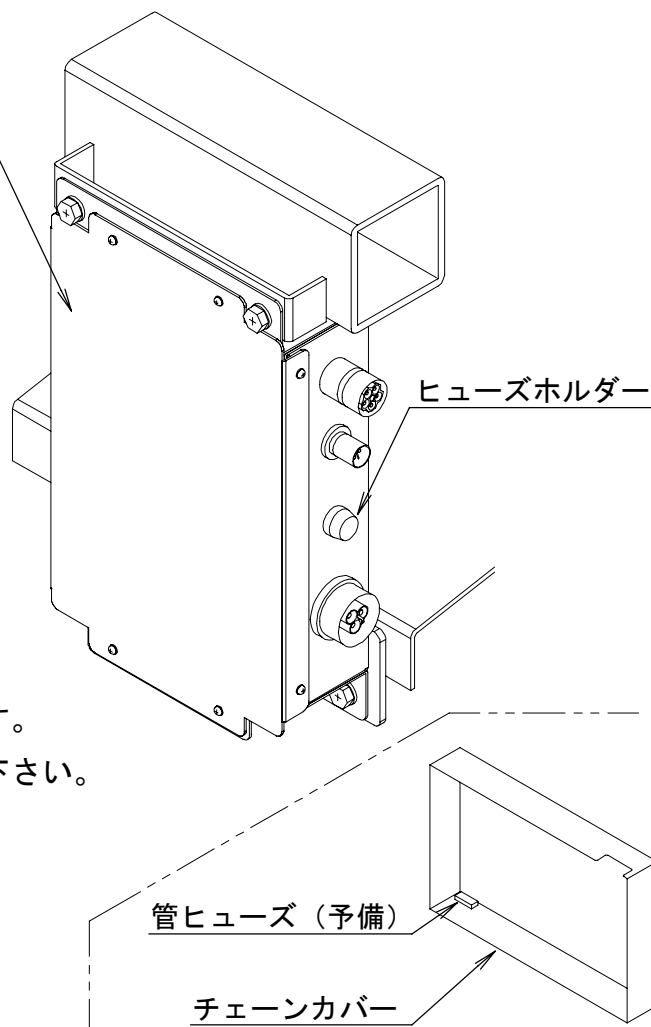
※管ヒューズ交換後、ローター回転の
異常負荷の原因（コードの圧迫による
ショート、モーターの過負荷等）を取り
除いてから作業を再開して下さい。

- (1) エンジンを停止し、電源コードを抜いて下さい。
- (2) 本体受信機の側面（散布機中央側）にある
ヒューズホルダーのヘッド部分を左に回し、
管ヒューズを抜いて下さい。
- (3) 予備の管ヒューズ（φ6.4×30mm 10A）を
差込み、ヒューズホルダーのヘッド部分を
右に回し、固定して下さい。

※予備の管ヒューズはチェーンカバーの裏にあります。

※交換する管ヒューズは必ず指定のモノを使用して下さい。
アンペア数の違うものを使用すると、安全装置が
正常に働かずに機械が破損したり故障する
恐れがあります。

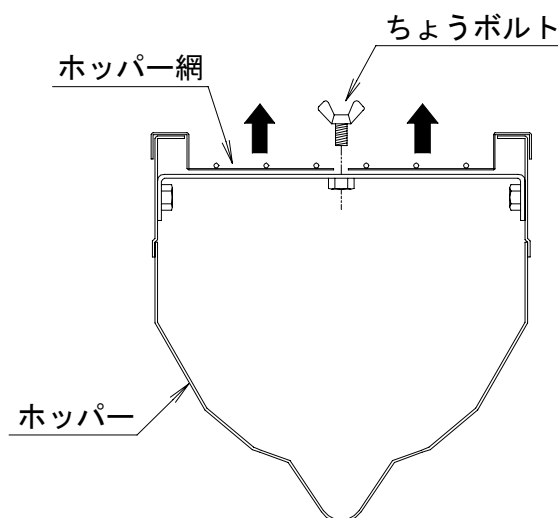
本体受信機



■ ホッパー網の取外し方

※ホッパー網は、残量肥料排出や
手入れの時以外は外さないで下さい。

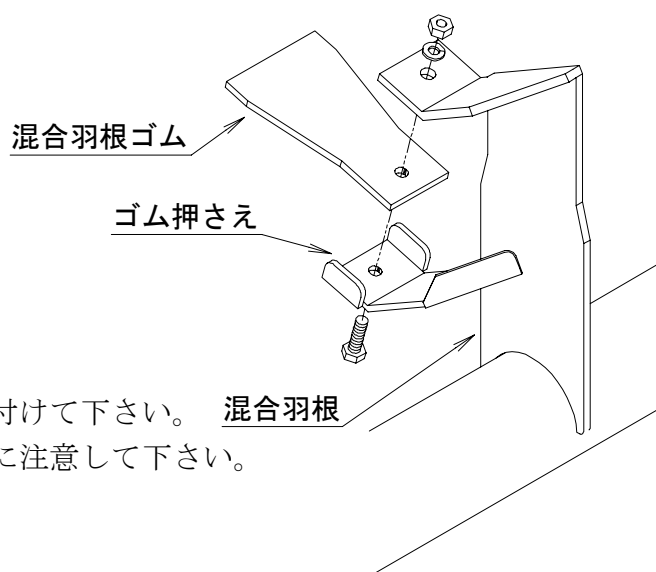
- (1) エンジンを停止し、PTOのギアを
N（ニュートラル）に入れて下さい。
- (2) 網を止めているちょうボルトを外します。
- (3) ホッパー網を上を持ち上げて外します。



■ 混合羽根ゴムの交換

(ゴムが損耗した場合に行ってください。)

- (1) エンジンを停止し、
PTOのギアをN（ニュートラル）
に入れて下さい。
- (2) 混合羽根に取り付いている混合羽根ゴムと
ゴム押さえを外して下さい。
- (3) 混合羽根ゴムを交換し、ゴム押さえを取り付けて下さい。混合羽根
ゴム押さえには左・右がありますので、取付に注意して下さい。

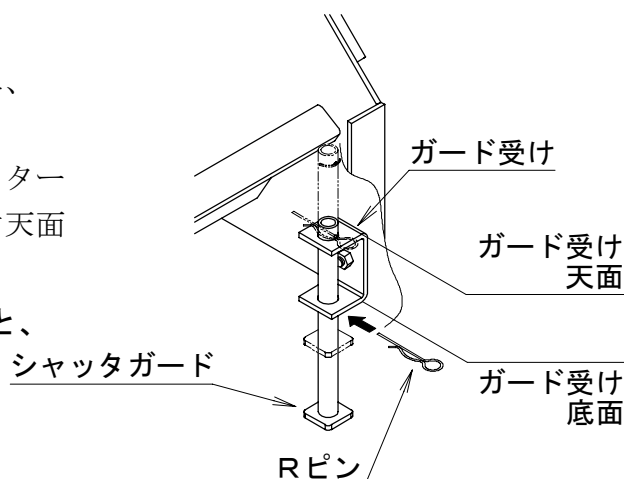


■ シャッターガードの使い方

※トラクタに散布機を取り付けた状態で保管する際に3点リンクの油圧が下がり、
散布機シャッター部が地面に当たらないようにするための部品です。

- (1) Rピンを抜いて、シャッターガードが最も下がる位置まで降ろして下さい。
シャッターガードが地面に当たる場合は、散布機を上昇させて、
地面に当たらないようにして下さい。
- (2) Rピンがガード受け底面より下になるように、
再度Rピンを差込んで下さい。
- (3) シャッターガードを収納するときは、シャッター
ガードを手で押し上げて、Rピンがガード受け天面
より上になるように差込んで下さい。

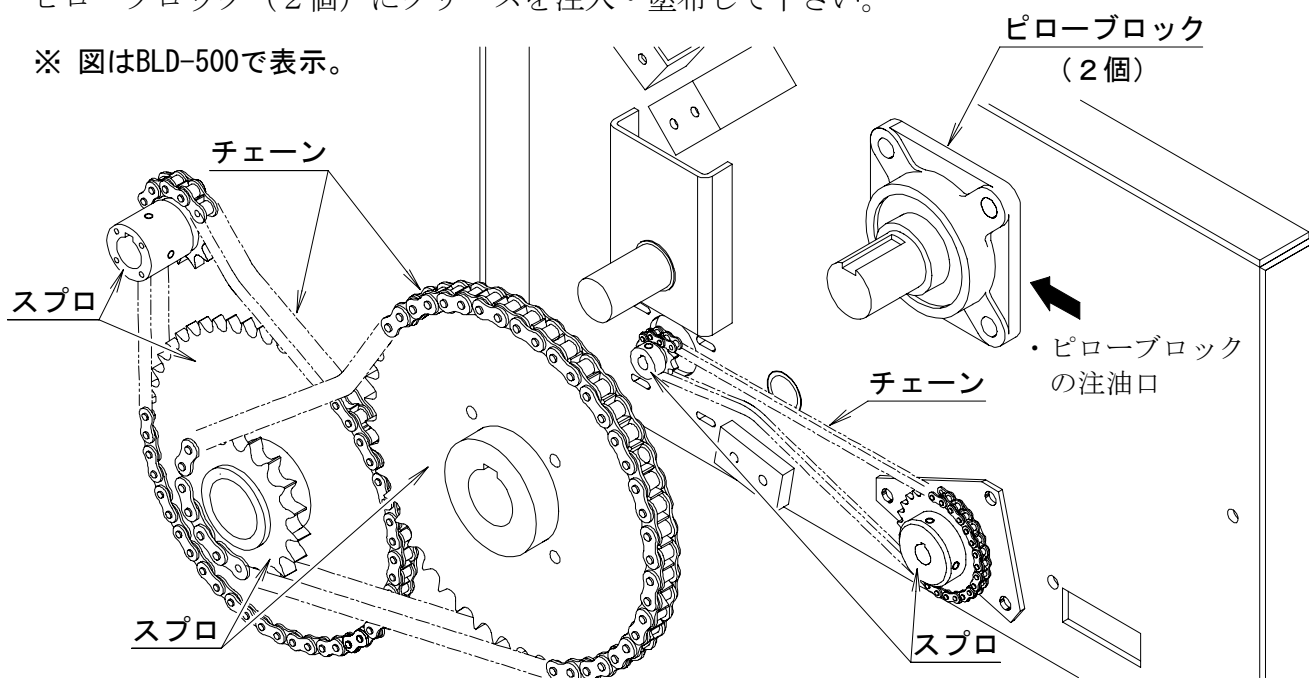
※シャッターガードを降ろした状態で移動すると、
地面にぶつかり、部品が破損する
恐れがあります。



■ 給油箇所

- (1) 円滑な作業をしていく為に、年に1回以上、スプロ（6個）、チェーン（3個）、ピローブロック（2個）にグリースを注入・塗布して下さい。

※ 図はBLD-500で表示。



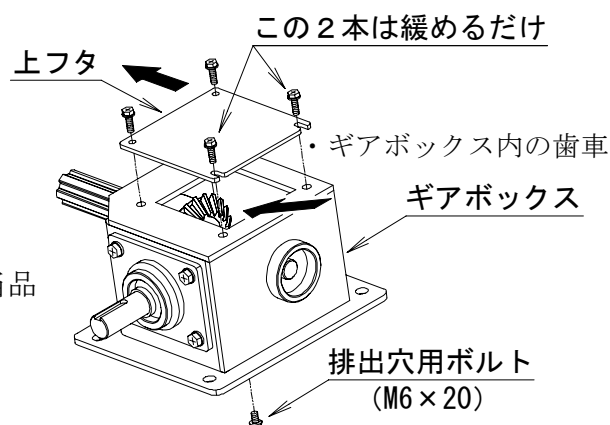
- (2) ギアボックスへのグリース注入は、上フタを外して行って下さい。

また、ゴミやホコリ等が入らないように注意して下さい。

2～3年に1回、歯車全体に塗って下さい。

推奨グリース：新日本石油

モリロックグリースA P O 相当品



- (3) 結露してギアボックス内に溜まった水等を排出する場合は、ボックスの底面に付いている排出穴用ボルトを外して下さい。

■ フタの取り外し方

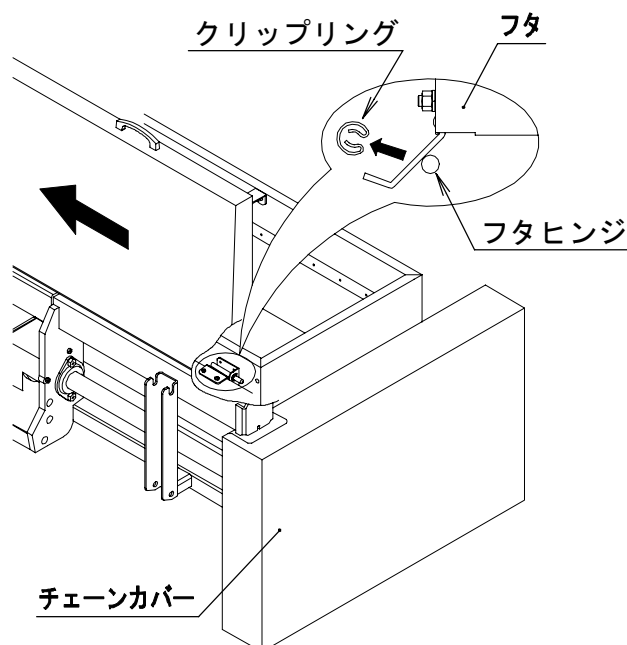
- (1) フタを閉じた状態で、フタヒンジからクリップリングをペンチ等を使って引き抜いて下さい。（右図参照）

- (2) フタを開けて、矢印の方向（従動側方向）にスライドして下さい。

※フタは大変重くなっております。

気を付けて持って下さい。

- (3) 取り付けは逆の手順で行って下さい。



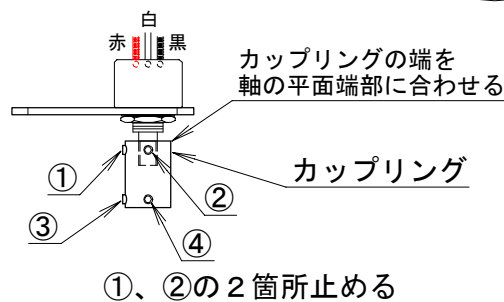
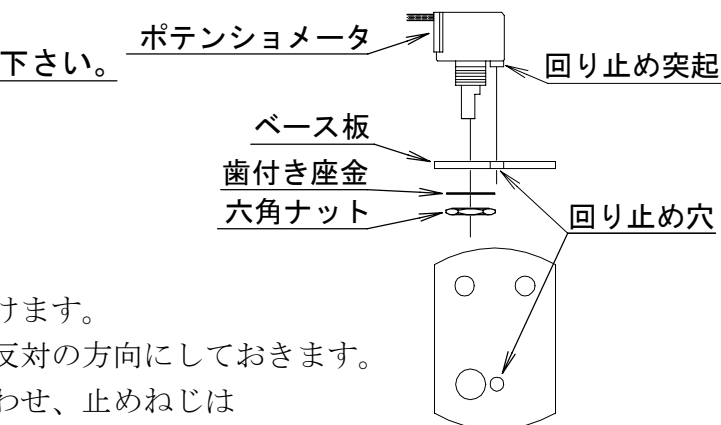
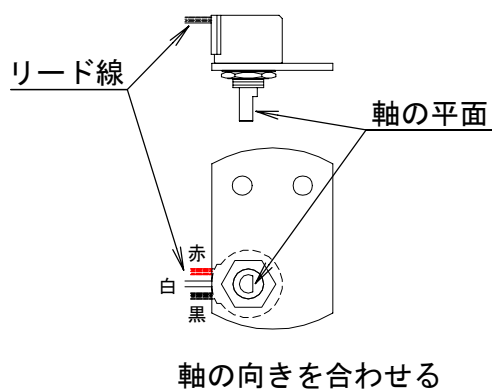
■ ポテンショメータ交換時の調整手順

※動作確認時以外は必ず電源を切ってください。

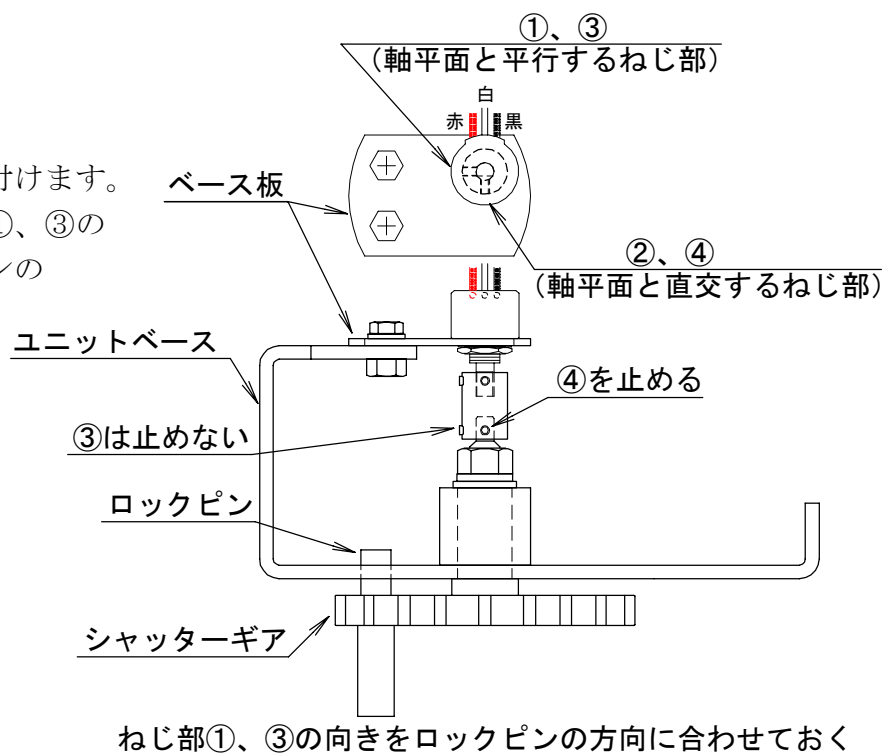
※安全の為、ローター中継コードは抜いておいて下さい。

外し方は、本体受信機フタに貼ってある、
「コネクタ接続方法」を参照して下さい。

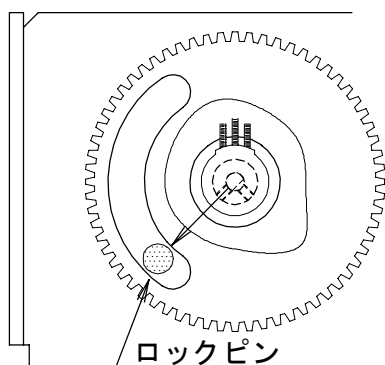
- (1) ポテンショメータを右図のような向きで
ベース板に取付けて下さい。
- (2) カップリングをポテンショメータの軸に取付けます。
この時、軸の削った平面の向きをリード線と反対の方向にしておきます。
カップリングは下図のような向きと位置に合わせ、止めねじは
①、②の2箇所だけ止めます。



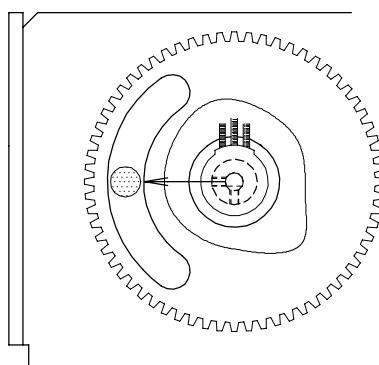
- (3) ベース板をユニットベースに取付けます。
この時、カップリングのねじ部①、③の
方向をシャッターギアのロックピンの
方向に合わせます。(下図参照)
カップリングの止めねじは
④だけ止めておきます。



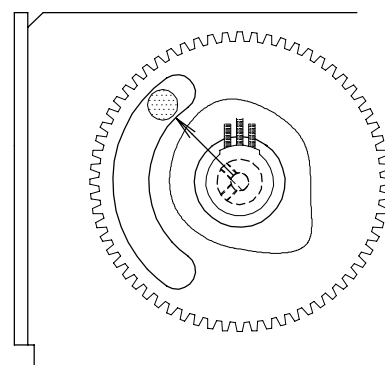
シャッター全閉状態で止まっている場合



半開状態で止まっている場合

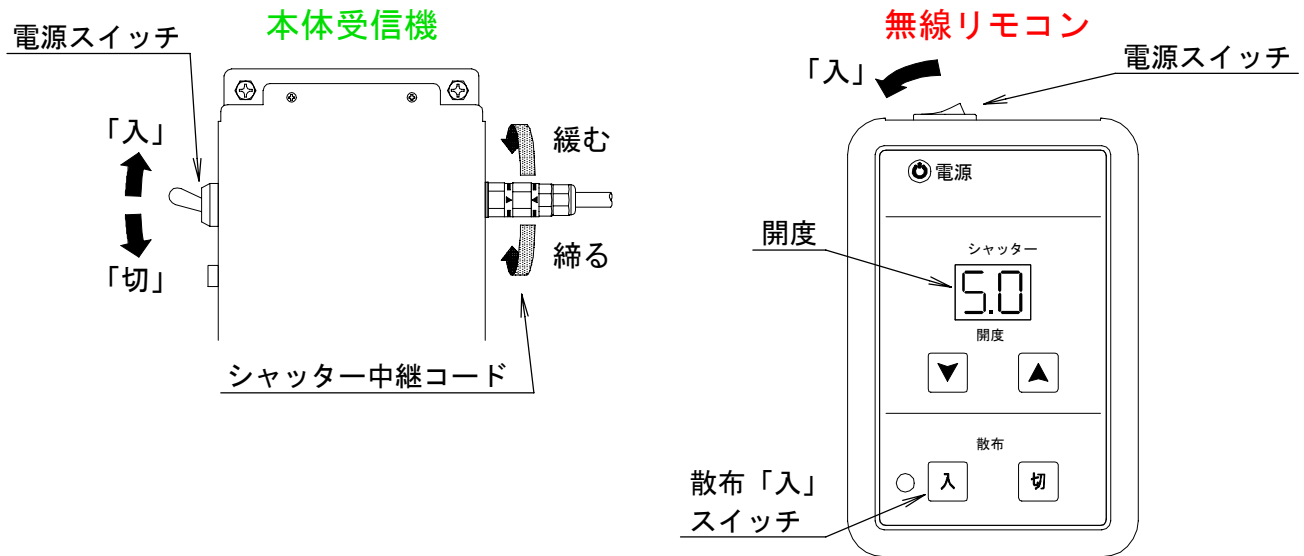


全開状態で止まっている場合



(4) シャッター中継コードを外して、**本体受信機**の電源を「入」にします。

無線リモコンの電源を「入」にして、開度を「5.0」に合わせ、散布「入」スイッチを押します。



(5) **本体受信機**の電源を「切」にして、シャッター中継コードを接続します。

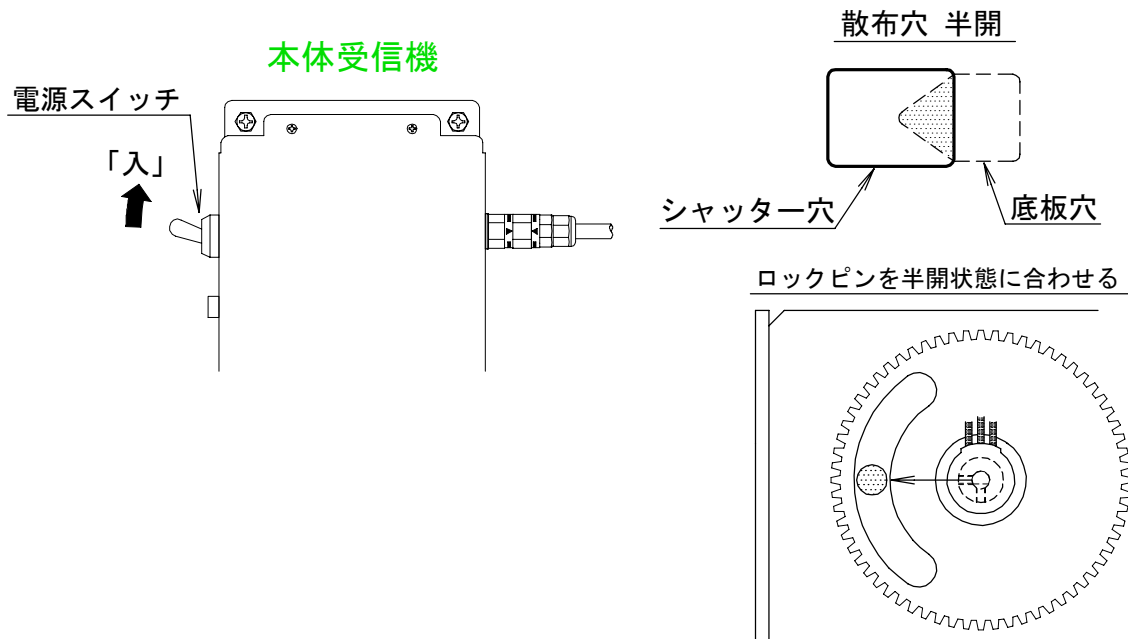
※この時、**無線リモコン**の操作は絶対にしないで下さい。

誤操作の原因になり、ケガをする恐れがあります。

(6) **本体受信機**の電源を「入」にして、ロックピンの位置を半開状態にします。

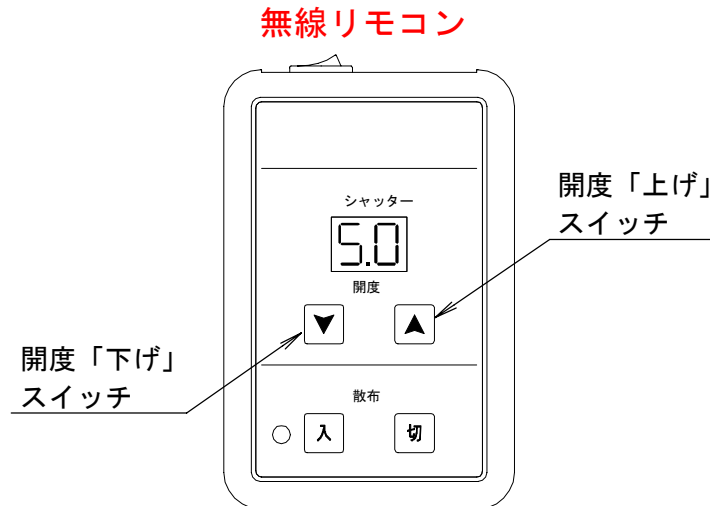
この時、散布穴は半開になります。

※電源を「入」にした瞬間にシャッターが動き出すので、十分に気を付けて下さい。



(7) 散布穴の全閉状態を確認します。

底板の散布穴を見ながらゆっくりと **無線リモコン**の 開度「下げ」スイッチを使って、シャッターを閉じていきます。



・ 全閉状態の位置が正しい場合 (図1-A 参照)

無線リモコンの開度が「0.0」の時に散布穴が全閉 (1～3mm重なり部分が有ること) になればOKです。その時のロックピンと長穴の隙間は5～9mmです。

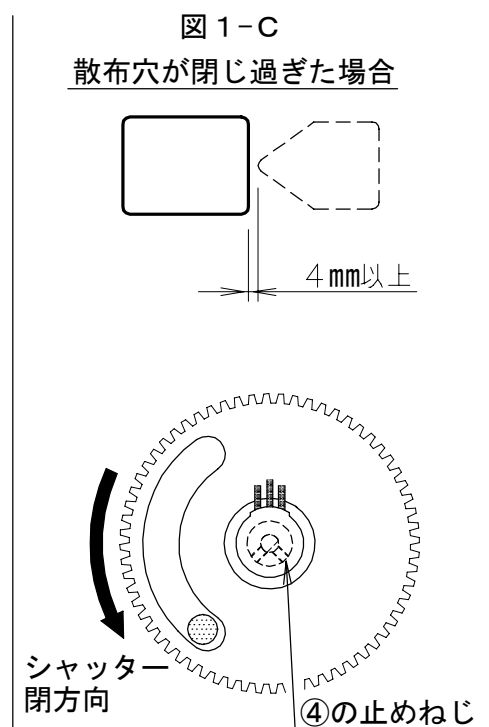
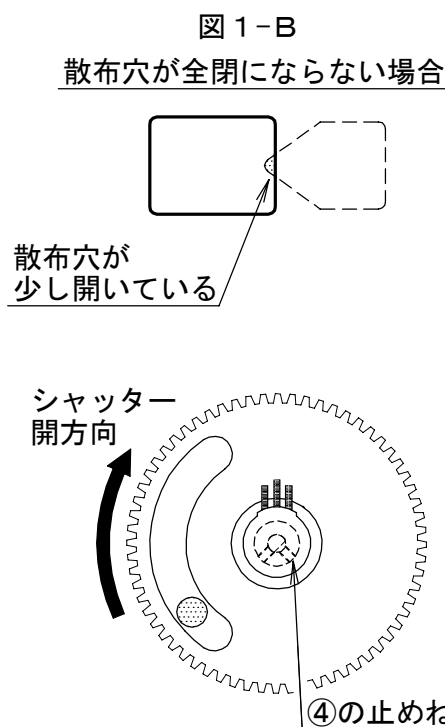
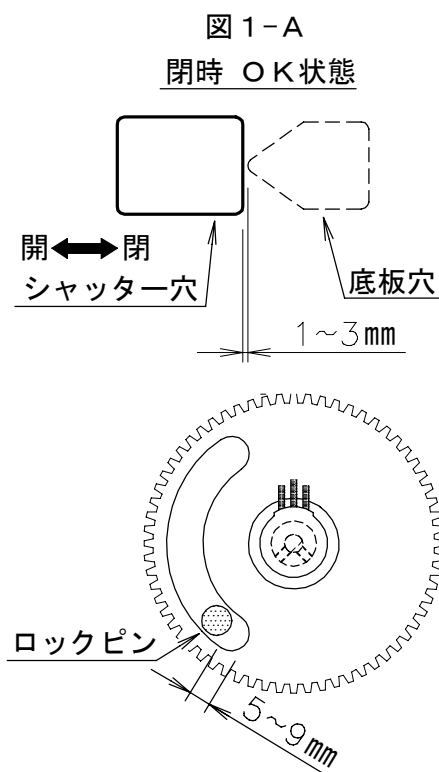
・ 散布穴が全閉にならない場合 (図1-B 参照)

無線リモコンの開度を「5.0」にしてから **本体受信機**の電源を「切」にして、④の止めねじを緩めポテンショメータの軸をカップリングごとと少しだけシャッター開方向に回して止めます。

・ 散布穴が閉じ過ぎた場合 (図1-C 参照)

無線リモコンの開度を「5.0」にしてから **本体受信機**の電源を「切」にして、④の止めねじを緩めポテンショメータの軸をカップリングごとと少しだけシャッター閉方向に回して止めます。

調整中、ロックピンが長穴端部に当たってロックした時は、**本体受信機**の電源を「切」にして、④の止めねじを緩めて、シャッター閉方向に回し、止めねじ④を止めて再度 **本体受信機**の電源を「入」にすると、作業が再開できます。



(8) 次に全開状態を確認します。

底板の散布穴を見ながらゆっくりと **無線リモコン** の 開度「上げ」スイッチを使って、シャッターを開けていきます。

・全開状態の位置が正しい場合（図2-A 参照）

無線リモコン の開度が「10.」の時に散布穴が全開（シャッター穴と底板穴が重なっている状態）になればOKです。

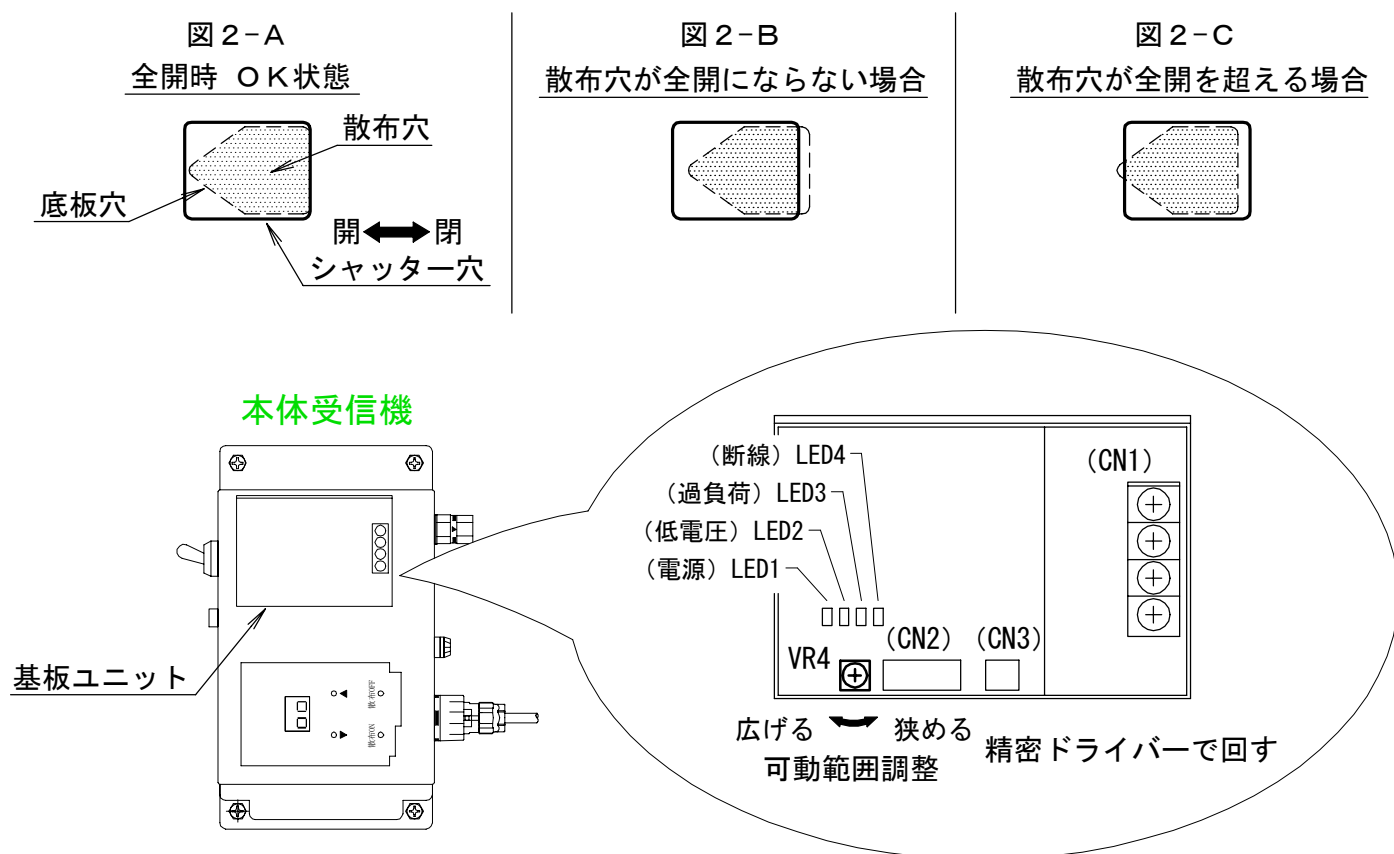
・散布穴が全開にならない場合（図2-B 参照）

本体受信機 内部にある基板ユニットのボリューム（VR4）を時計方向に少し回して（精密ドライバー 使用）、シャッターの可動範囲を広げて下さい。

・散布穴が行き過ぎた場合（図2-C 参照）

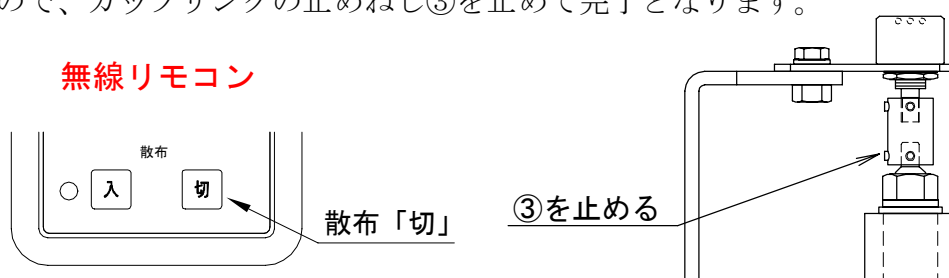
本体受信機 内部にある基板ユニットのボリューム（VR4）を反時計方向に少し回して（精密ドライバー 使用）、シャッターの可動範囲を狭めて下さい。

基板ユニットのボリュームを調整した時は、閉方向の可動範囲も変わるので、再度（7）からの作業を行って下さい。



(9) 開度を「10.」にして散布穴が全開になり、

無線リモコン の 散布「切」スイッチ押して散布穴が全閉になれば調整終了ですので、カップリングの止めねじ③を止めて完了となります。



■ 無線通信のペアリング手順

※無線リモコンまたは本体受信機を交換したときに行います。

また、無線通信ができなくなった場合も同様の手順が必要になります。

(1) ～ (2) の手順で、ペアリングを行う準備をします。

(1) 安全の為、シャッター中継コード及びローター中継コードを本体受信機から外して下さい。

※コードの外し方は、本体受信機のフタに貼ってある

「コネクタ接続方法」を参照して下さい。

(2) 本体受信機のフタを外して下さい。

(ばね座付き六角ボルト M4×8 8ヶ所)

(作業しづらい場合は、散布機から
本体受信機を外すと作業しやすくなります。)

(ばね座付き六角ボルト M8×15 4ヶ所)

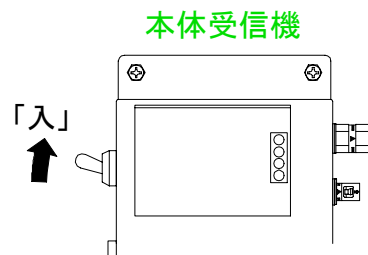
(3) ～ (6) の手順で、ペアリングを行います。

※近くで同じチャンネルで無線通信が行われていると、

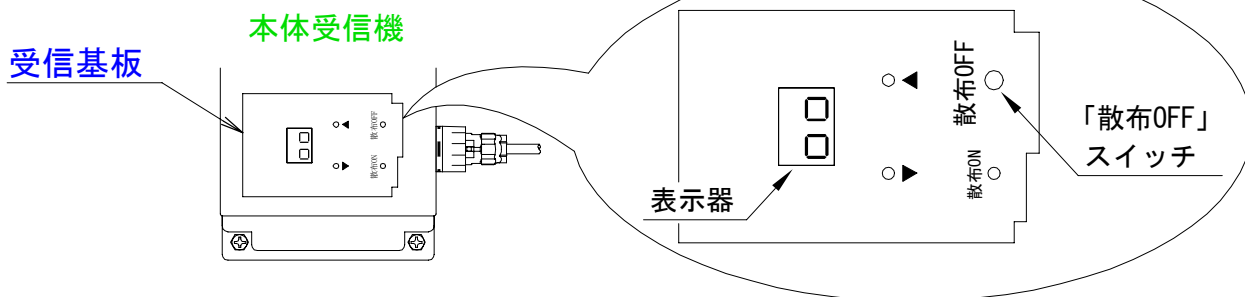
意図しないIDを取得することがあります。

他の無線リモコンの電源は切っておいて下さい。

(3) 無線リモコンと本体受信機の電源を「入」にします。

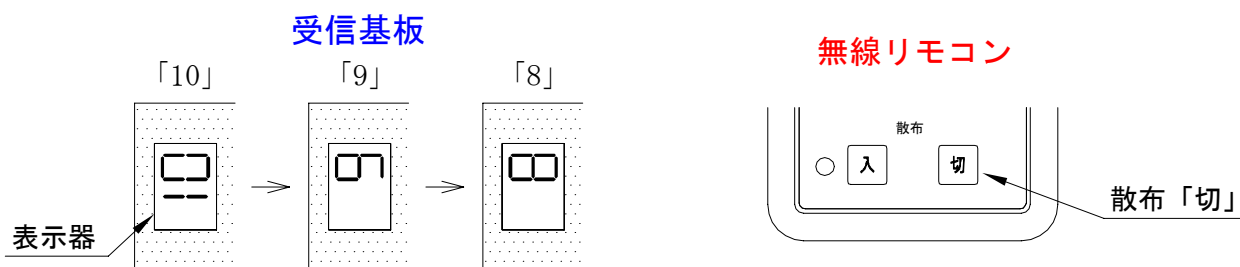


(4) 本体受信機内部にある受信基板の
「散布OFF」スイッチを約2秒間長押しします。



(5) 受信基板の表示器が10秒間のカウントダウンを始めます。

カウントダウン中に無線リモコンの散布「切」スイッチを押して下さい。

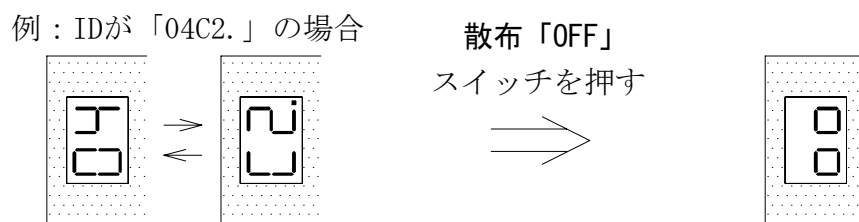


※操作が間に合わなかった場合、表示器に「E2」と連続で点滅表示されます。

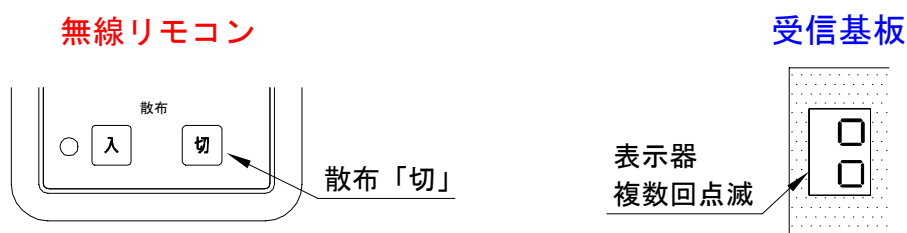
その場合、「散布OFF」スイッチを押すと、表示が「00」に戻りますので、

再度(4)から操作を行って下さい。

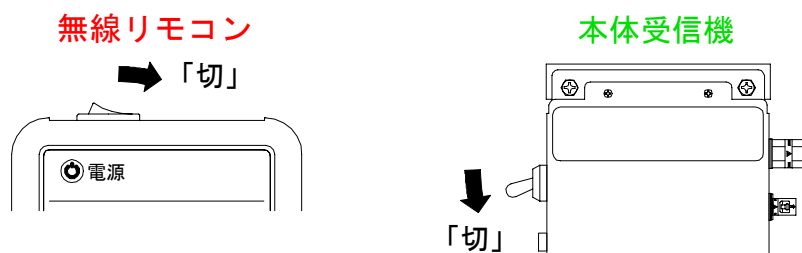
- (6) ペアリングが成功した場合、**受信基板**の表示器に取得したIDを2桁ずつ表示します。
受信基板の「散布OFF」スイッチを押して、表示が「oo」になったらペアリング完了です。



- (7) ペアリング完了後、**無線リモコン**の 散布「切」スイッチを押したとき、**受信基板**の表示器が複数回点滅すれば正常です。



- (8) 無線通信（ペアリング）が確認出来たら、**無線リモコン**と **本体受信機**の電源スイッチを「切」にしてください。



※無線リモコンや本体受信機を交換した場合、シャッターの位置がズレることがあります。
 その場合、17ページの「シャッター開度の調整方法」を参考に、シャッターの位置を調整して下さい。

■ エラーの表示について

表示		エラー詳細
無線リモコン	E1	送信に失敗した場合に表示される。 再度操作を行う時に解除されます。
受信基板	E2	ペアリングに失敗した場合に表示される。 「散布OFF」スイッチを押すと解除されます。

※複数回ペアリング操作を行ってもエラーが表示される場合は、お手数ですが、製造元までご連絡下さい。

■ 故障の原因と対応について

ブレンド散布機の動作がおかしい時、以下の項目に沿って故障の原因を探して下さい。

※安全の為、P T OのギアをN（ニュートラル）にして、動作確認時以外は必ず電源を切して下さい。

トラブル 内容	考えられる 原因	お客様にご確認して いただきたい事項
電源ランプが 点かない	・ ヒューズ切れ	電源コードのヒューズ（20A）が切れていないか確認して下さい。
	・ 電源コードの接続不良	電源コードの接続を確認して下さい。
	・ 電源コードの断線	電源コードの断線を確認して下さい。
	・ 逆接続	バッテリー電源延長コードの逆接続を確認して下さい。
肥料が出ない 又は止まらない	・ ヒューズ切れ	ローター用ヒューズ（10A 管ヒューズ）が切れていないか確認して下さい。
	・ コードの接続不良	各種コードの接続を確認して下さい。
	・ コードの断線	各種コードの断線を確認して下さい。
	・ 低電圧	基板ユニットのLEDを確認して下さい。 (P. 24参照)
	・ 過負荷	
	・ 基板の故障	本体受信機内部の基板のLEDや表示器が点灯しているか確認して下さい。
	・ ポテンショメータの故障	シャッターユニットのロックピンの位置を確認して下さい。（P. 21参照）
	・ 無線リモコンの通信不良	受信機とペアリングがされているか確認して下さい。 ※1
	・ シャーボルト切れ	シャーボルトが切れていないか確認して下さい。 切れていた場合、交換して下さい。（P. 15参照）
	・ チェーン切れ	チェーンが切れていないか確認して下さい。
	・ 流れの悪い肥料	粉状等の流れの悪い肥料は散布が安定しない場合があります。
	・ 含水率の多い肥料	手で握って固まったり、含水率が20%以上の肥料は散布できません。
	・ フェルト破れ	シャッターを外して、フェルトが破けていないか確認して下さい。 破けていた場合、交換して下さい。（P. 18参照）

※1 本体受信機内部にある受信基板の表示器が、無線リモコンの散布「入」/「切」操作時に複数回点滅しなければ、無線通信（ペアリング）が出来ていません。

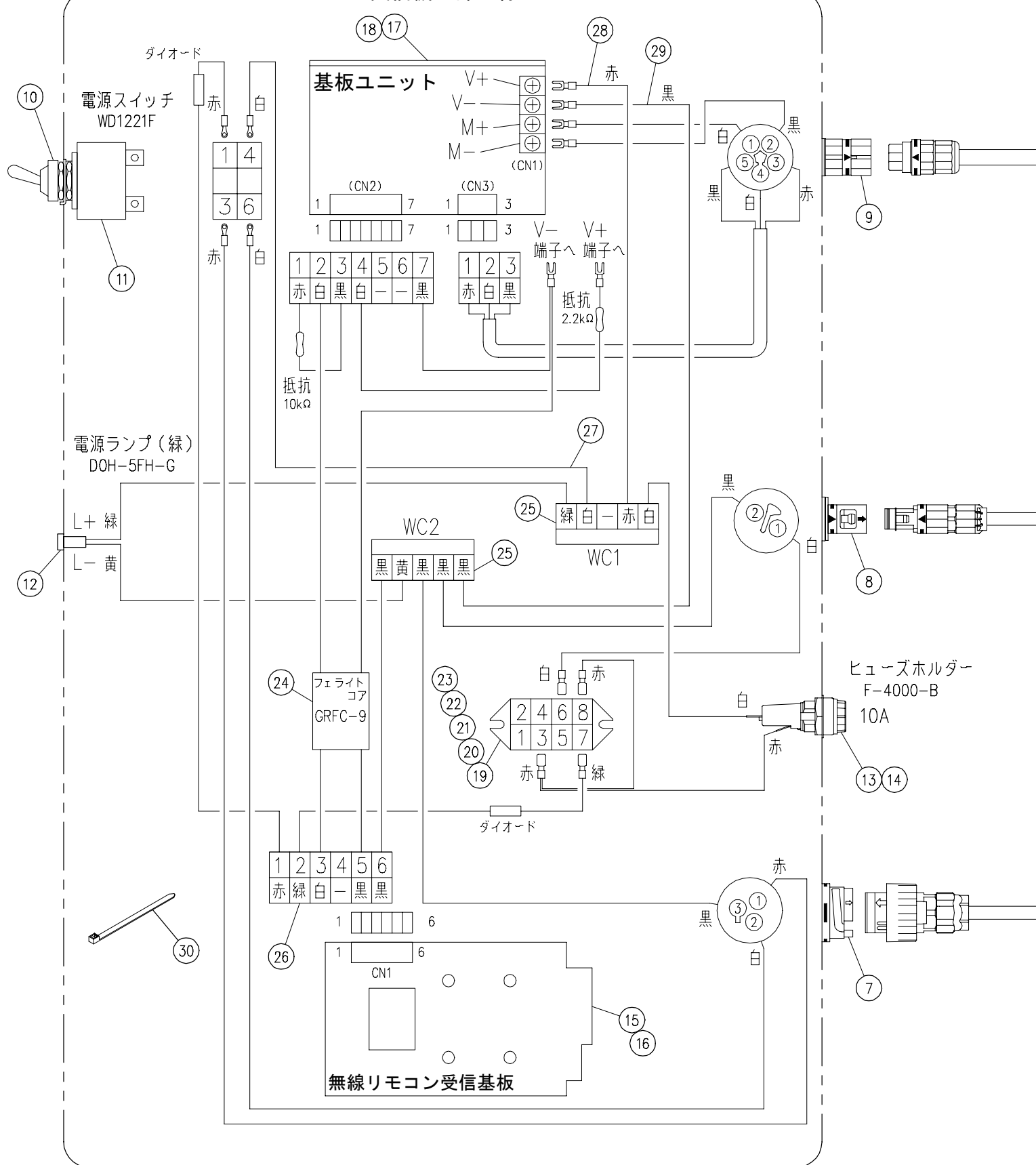
25ページ、26ページの「無線通信のペアリング手順」を参考にペアリングの再設定を行って下さい。

■ MEMO

■ 分解図

A. 電装部

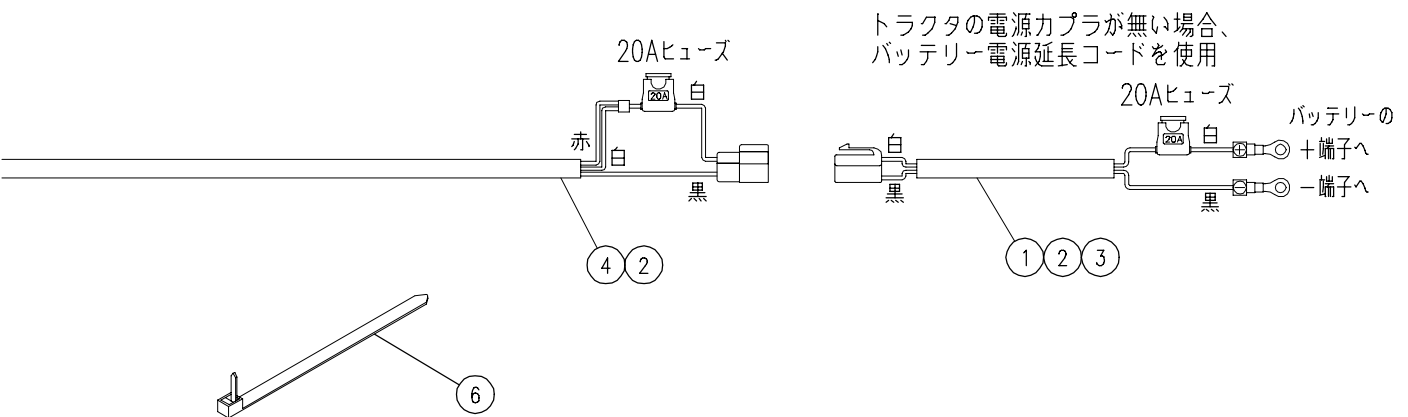
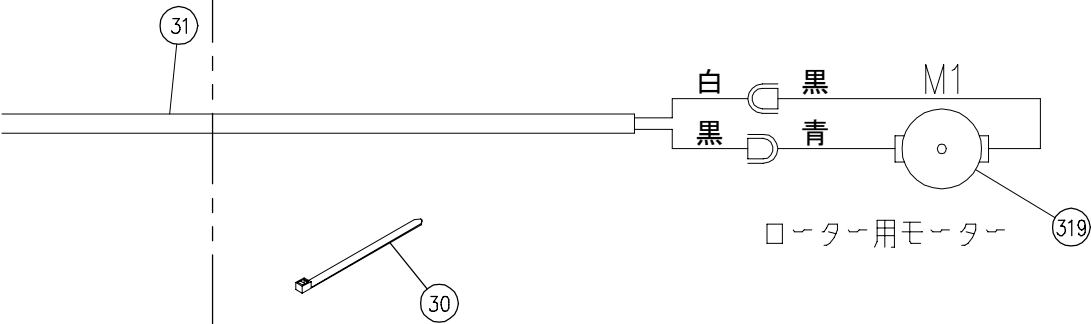
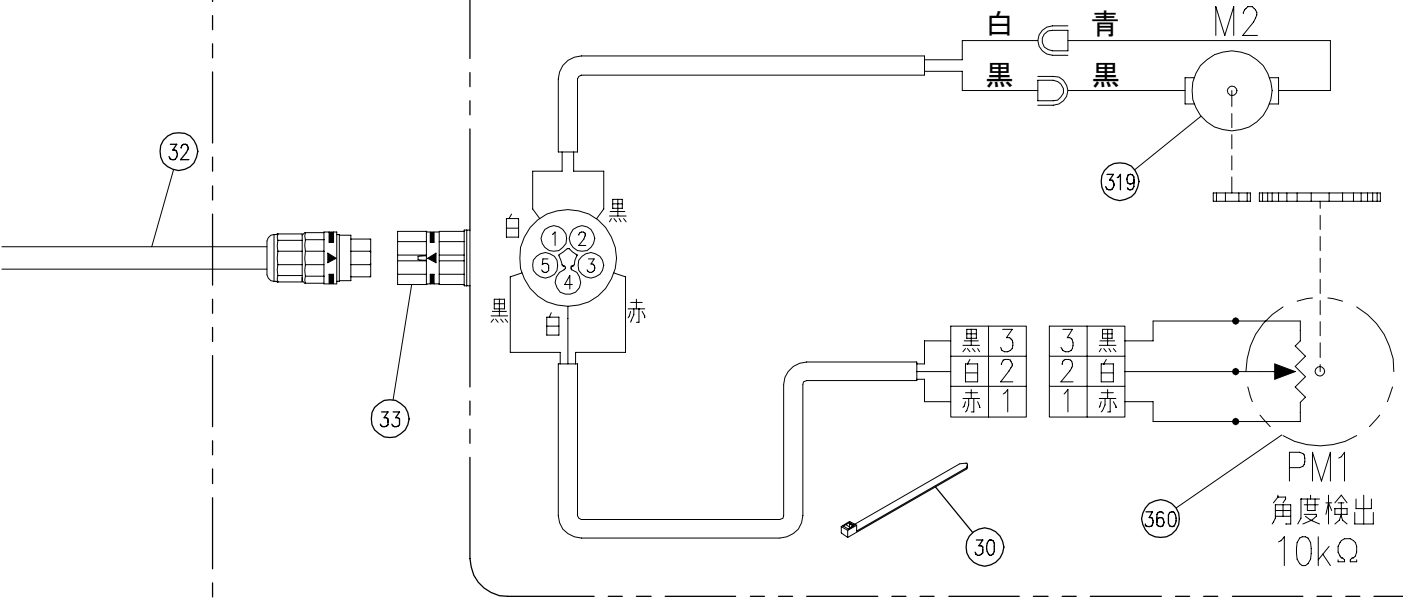
受信機内部配線

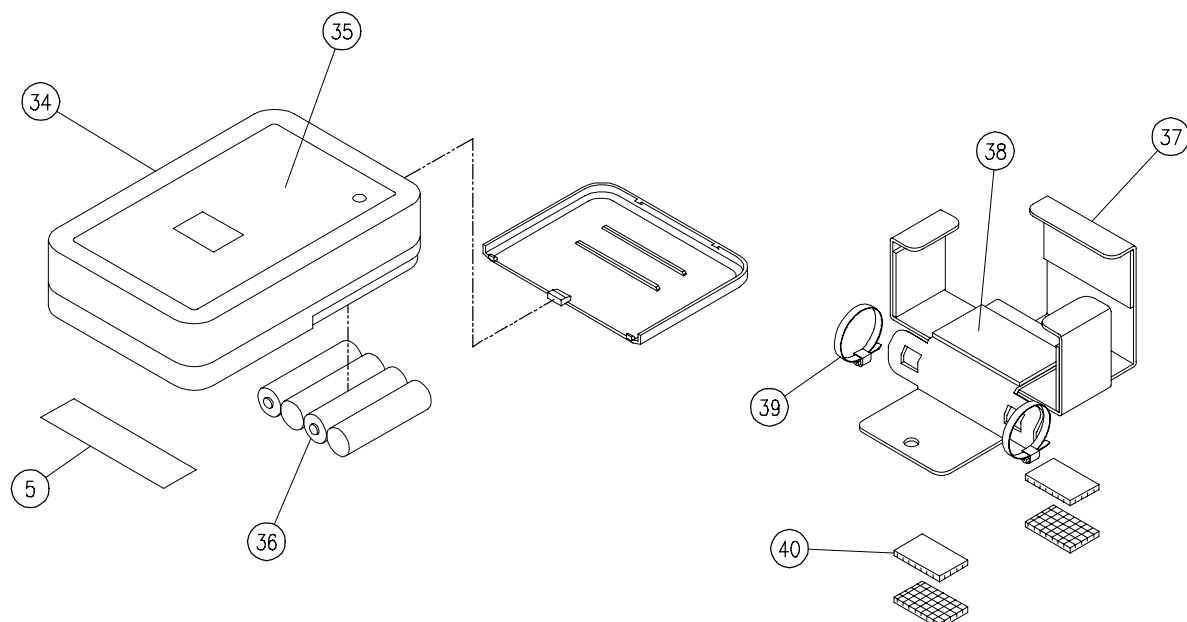


散布機

チェーンカバー内

シャッター用モーター

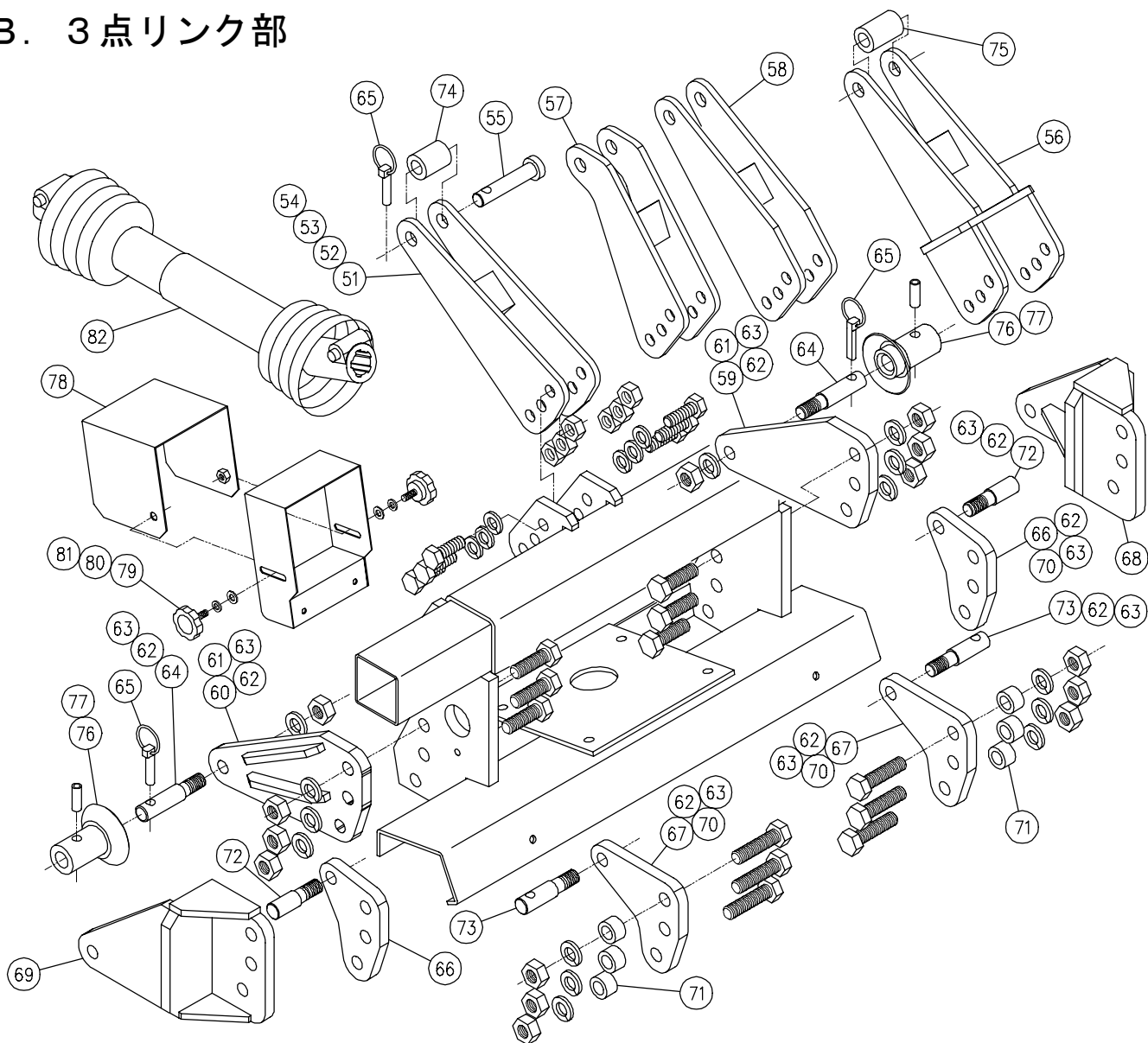




部品表（電装部）

No.	部 品 名	数量		
		270	340	500
1	バッテリー電源延長コード 2.0m m ² ×2.5m	1	1	1
2	平型ヒューズ 20A	4 (予備2)	4 (予備2)	4 (予備2)
3	六角ナット M6	2	2	2
4	電源コード 2.0m m ² ×3.0m	1	1	1
5	落下厳禁シール	1	1	1
6	リピータイ (RF250-W)	7	7	7
7	電源コネクタプラグ (THB406-3P)	1	1	1
8	ローターコネクタプラグ (THB381E-2P-8)	1	1	1
9	シャッターコネクタプラグ (THB387E-5P-M20)	1	1	1
10	防水キャップ (WD1811B)	1	1	1
11	トグルスイッチ (WD1221F)	1	1	1
12	電源ランプ (DOH-5FH-G)	1	1	1
13	ヒューズホルダーアッシー	1	1	1
14	管ヒューズ 10A (予備2個)	3	3	3
15	無線リモコン受信基板	1	1	1
16	ワンタッチスペーサー (WN-10G)	6	6	6
17	基板ユニット (TD13013)	1	1	1
18	ばね座付き十字穴付き 六角ボルト M4×8	2	2	2
19	パワーリレー (LY1F DC12)	1	1	1
20	十字穴付きなべ小ねじ M3×10	2	2	2
21	ばね座金 M3	2	2	2
22	平座金 M3	2	2	2
23	六角ナット M3	2	2	2
24	フェライトコア (GRFC-9)	1	1	1
25	ワンタッチコネクタ (WFR-5)	2	2	2
26	基板接続コード	1	1	1
27	渡り線 (白)	1	1	1
28	渡り線 (赤)	1	1	1
29	渡り線 (黒)	1	1	1
30	結束バンド (AB-150) (受信機内、モーター部、 チェーンカバー内抜け止め用)	6	6	6
31	ローター中継コード (BLD-270)	1	—	—
	ローター中継コード (BLD-340)	—	1	—
	ローター中継コード (BLD-500)	—	—	1
32	シャッター中継コード (BLD-270)	1	—	—
	シャッター中継コード (BLD-340)	—	1	—
	シャッター中継コード (BLD-500)	—	—	1
33	シャッターユニットコード (BLD-500)	1	1	1
34	無線リモコン	1	1	1
35	無線リモコン盤面シール	1	1	1
36	単3乾電池	4	4	4
37	リモコンホルダー	1	1	1
38	スポンジ	4	4	4
39	ステンレスバンド (W2-SX-T9-20)	2	2	2
40	マジックテープ	4	4	4

B. 3点リンク部



部品表（3点リンク部）

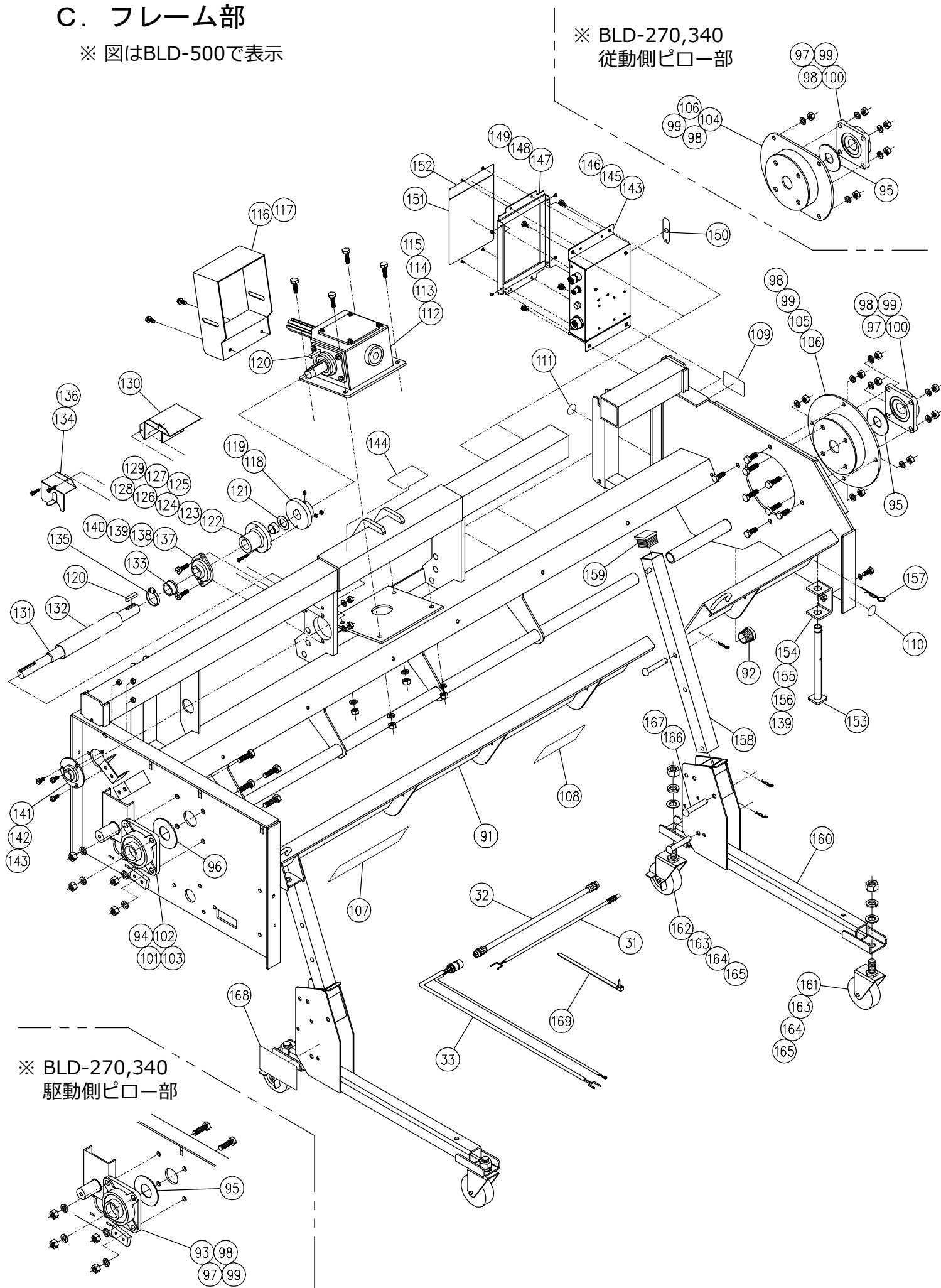
No.	部 品 名	数 量						
		OS	IS	A1	A2	B	BM	OL
51	標0型トップ板 (SRB)	1	1	—	—	—	—	—
52	六角ボルト M16×40 10.9T (細目)	6	6	6	6	6	6	6
53	ばね座金 M16	6	6	6	6	6	6	6
54	六角ナット M16 8.8T (細目)	6	6	6	6	6	6	6
55	トップリンクピン	1	1	1	1	1	1	1
56	標1型トップ板 (SRB)	—	—	—	—	—	—	1
57	特A1、B型トップ板 (SRB)	—	—	1	—	1	1	—
58	特A2型トップ板 (SRB)	—	—	—	1	—	—	—
59	標0型強化ロアー板右	1	1	—	—	—	—	—
60	標0型強化ロアー板左	1	1	—	—	—	—	—
61	六角ボルト M18×55 10.9T (細目)	6	6	—	—	6	6	6
62	バネ座金 M18	8	8	8	8	8	8	8
63	六角ナット M18 8.8T (細目)	8	8	8	8	8	8	8
64	標0：1型ロアーピン (SRB)	2	2	—	—	—	—	2
65	リンチピン	1	3	3	3	1	1	1

No.	部 品 名	数 量						
		OS	IS	A1	A2	B	BM	OL
66	特A1、B型ロアー板 (SRB)	—	—	2	—	2	2	—
67	特A2型ロアー板 (SRB)	—	—	—	2	—	—	—
68	標1型ロアー板右 (DSB)	—	—	—	—	—	—	1
69	標1型ロアー板左 (DSB)	—	—	—	—	—	—	1
70	六角ボルト M18×70 10.9T (細目)	—	—	6	6	—	—	—
71	特A型ロアーカラー (SRB)	—	—	6	6	—	—	—
72	特B型ロアーピン (SRB)	—	—	—	—	2	—	—
73	特A型ロアーピン (SRB)	—	—	2	2	—	2	—
74	トップリンクカラー	1	—	—	—	—	—	—
75	標1：2型トップカラー	—	—	—	—	—	—	1
76	ガイドカラー	2	—	—	—	—	—	2
77	ロールピン	2	—	—	—	—	—	2
78	延長カバー (ATB)	1	—	—	—	—	—	—
79	ノブボルト M8×20	2	—	—	—	—	—	—
80	ばね座金 M8 (SUS)	2	—	—	—	—	—	—
81	平座金 M8 (SUS)	2	—	—	—	—	—	—
82	ユニバーサルジョイント L = 600	—	1	—	—	—	—	—

C. フレーム部

※ 図はBLD-500で表示

※ BLD-270,340
従動側ピロ一部



部品表（フレーム部）

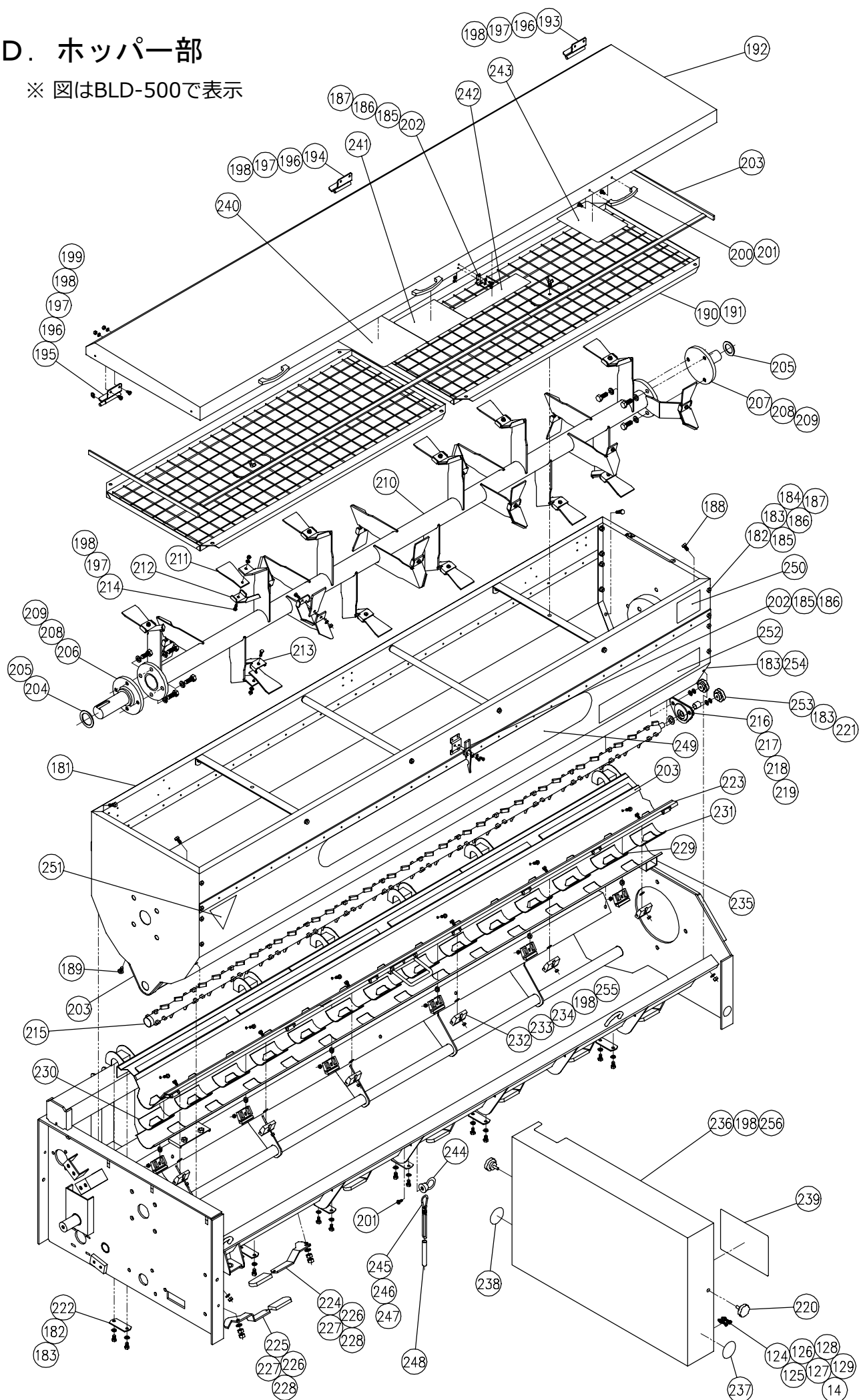
・フレームは受注生産品です。

No.	部 品 名	数量		
		270	340	500
91	フレーム (BLD-270) 受注生産	1	—	—
	フレーム (BLD-340) 受注生産	—	1	—
	フレーム (BLD-500) 受注生産	—	—	1
92	丸中栓 (φ34×t3.2用)	1	1	1
93	ピローブロック (UCF207)ニップルA形	1	1	—
94	ピローブロック (UCF209)ニップルA形	—	—	1
95	防塵フェルト (φ85-φ33)	2	2	1
96	防塵フェルト (φ95-φ43)	—	—	1
97	六角ボルト M12×40 (SUS)	8	8	4
98	ばね座金 M12 (SUS)	12	12	8
99	六角ナット M12 (SUS)	12	12	8
100	ピローブロック (UCF207) ニップルC形	1	1	1
101	六角ボルト M14×45 (SUS)	—	—	4
102	ばね座金 M14 (SUS)	—	—	4
103	六角ナット M14 (SUS)	—	—	4
104	ピロー受け BLD-340	1	1	—
105	ピロー受け	—	—	1
106	六角ボルト M12×30 (SUS)	4	4	4
107	底板開閉シール (No.TE38168)	1	1	1
108	底板レバーシール (No.TD38396)	1	1	1
109	製造シール (No.TE38184)	1	—	—
	製造シール (No.TE38185)	—	1	—
	製造シール (No.TE38186)	—	—	1
110	蛍光シール (赤)	1	1	1
111	蛍光シール (白)	1	1	1
112	ギアボックスアッシー	1	1	1
113	六角ボルト M12×35 10T (細目)	4	4	4
114	ばね座金 M12	4	4	4
115	六角ナットM12 8T (細目)	4	4	4
116	P I Cカバー (ATB)	1	1	1
117	ばね座付き十字穴付き六角ボルト M6×15 (SUS)	2	2	2
118	駆動軸ハブ	1	1	1
119	六角穴付止めねじ M8×10	2	2	2
120	キー 10×8×40 (片R)	2	2	2
121	ドライメットワッシャー (LFW-2615)	1	1	1
122	延長軸ハブ	1	1	1
123	ブッシュ (LFB-2615)	1	1	1
124	シャーボルト M5×35 4.8T (予備2ヶ)	3	3	—
125	シャーボルト M6×35 4.8T (予備2ヶ)	—	—	3
126	ばね座金 M5 (予備2ヶ)	3	3	—
127	ばね座金 M6 (予備2ヶ)	—	—	3
128	六角ナット M5 (予備2ヶ)	3	3	—
129	六角ナット M6 (予備2ヶ)	—	—	3
130	ハブカバー	1	1	1
131	延長軸 (BLD-270)	1	—	—
	延長軸 (BLD-340)	—	1	—
	延長軸 (BLD-500)	—	—	1

No.	部 品 名	数量		
		270	340	500
132	軸カバー (BLD-270)	1	—	—
	軸カバー (BLD-340)	—	1	—
	軸カバー (BLD-500)	—	—	1
133	軸カバースペーサー	1	1	1
134	軸カバー押さえ	1	1	1
135	ステンレスバンド	1	1	1
136	ばね座付き十字穴付き六角ボルト M6×25 (SUS)	2	2	2
137	ピローブロック (SBPFL206)	1	1	1
138	十字穴付き六角ボルト M10×35 (SUS)	2	2	2
139	ばね座金 M10 (SUS)	3	3	3
140	六角ナット M10 (SUS)	2	2	2
141	ピローブロック (SBPFL205)	1	1	1
142	ばね座付き十字穴付き六角ボルト M8×20 (SUS)	3	3	3
143	六角ナット M8 (SUS)	5	5	5
144	危険シール (No. TE38054)	1	1	1
145	受信機	1	1	1
146	ばね座付き十字穴付き六角ボルト M8×15 (SUS)	4	4	4
147	受信機 フタ	1	1	1
148	エプトシール (5×20×1000)	1	1	1
149	ばね座付き十字穴付き六角ボルト M4×8 (SUS)	8	8	8
150	電源シール	1	1	1
151	コネクタシール	1	1	1
152	電源注意シール	1	1	1
153	シャッターガード	1	1	1
154	ガード受け	1	1	1
155	十字穴付き六角ボルト M10×25 (SUS)	1	1	1
156	割りピン φ4×40	1	1	1
157	Rピン φ22用	1	1	1
158	スタンド柱 (ATB)	2	2	—
	スタンド柱 (BLD)	—	—	2
159	角中栓 (□45×t2.3用)	2	2	2
160	スタンドベース (SRB)	2	2	—
	スタンドベース (BLD)	—	—	2
161	キャスター (SJT-100W) (ストッパー無し)	2	2	2
162	キャスター (SJT-100WS) (ストッパー付き)	2	2	2
163	平座金 M20	4	4	4
164	ばね座金 M20	4	4	4
165	六角ナット M20	4	4	4
166	丸頭ピン φ12×70	6	6	6
167	Rピン φ12用B型	6	6	6
168	スタンドシール (SRB) (No.TE38103)	1	1	1
169	リリースタイ (RF250-W) (本体への中継コード固定用)	4	4	4

D. ホッパー部

※ 図はBLD-500で表示



部品表（ホッパー部）

・混合羽根、ホッパーアッシー、底板アッシーは受注生産品です。

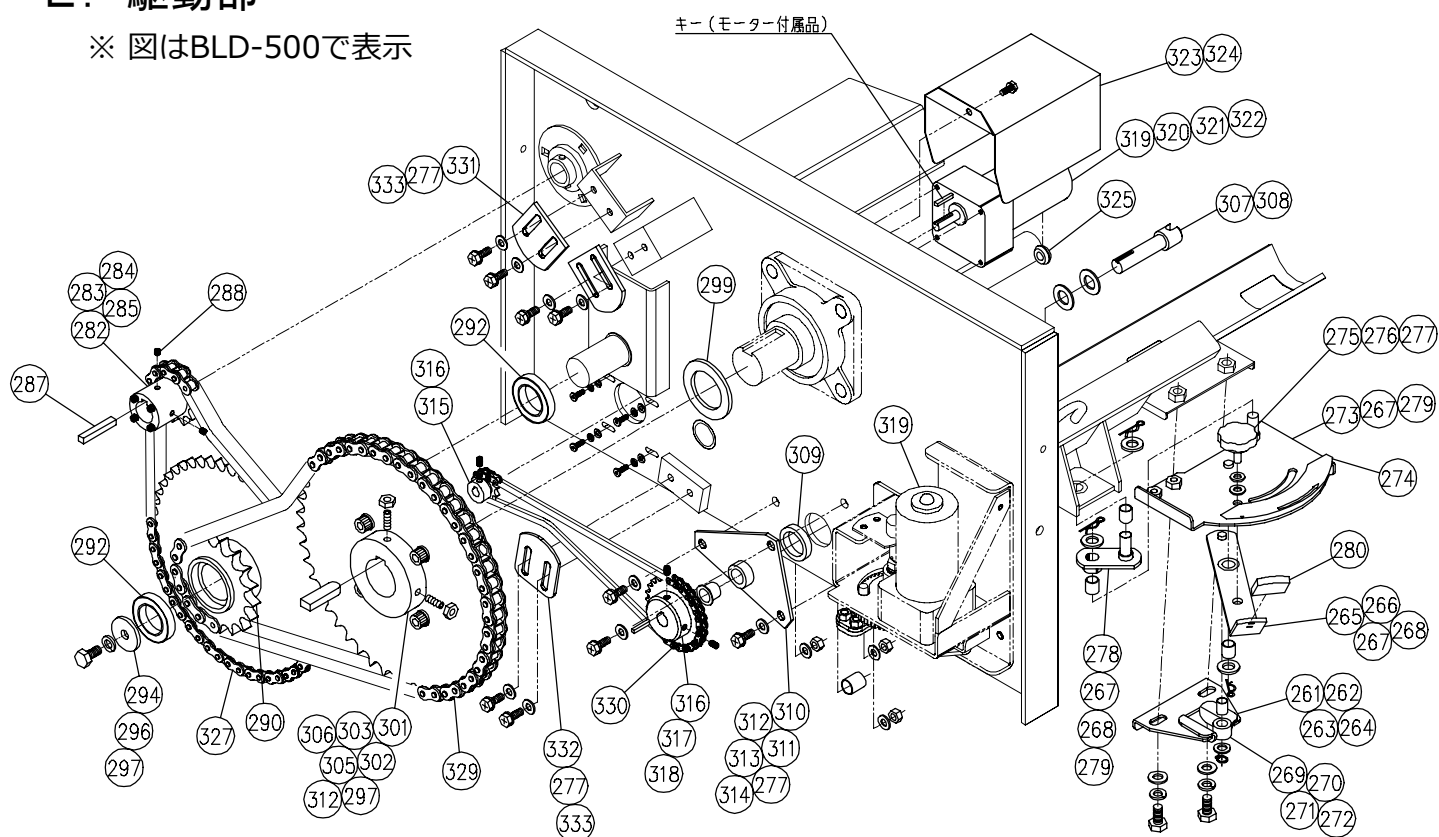
No.	部 品 名	数量		
		270	340	500
181	ホッパーアッシー (BLD-270) 受注生産	1	—	—
	ホッパーアッシー (BLD-340) 受注生産	—	1	—
	ホッパーアッシー (BLD-500) 受注生産	—	—	1
182	十字穴付き六角ボルト M8×15 (SUS)	28	30	44
183	ばね座金 M8 (SUS)	46	48	68
184	六角ナット M8 (SUS)	30	30	40
185	十字穴付き六角ボルト M5×12 (SUS)	8	8	8
186	ばね座金 M5 (SUS)	8	8	8
187	六角ナット M5 (SUS)	6	6	6
188	十字穴付き六角ボルト M8×20 (SUS)	10	10	16
189	十字穴付きトラス小ねじ M8×15 (SUS)	4	4	4
190	ホッパー網 (BLD-270)	2	—	—
	ホッパー網 (BLD-340)	—	2	—
	ホッパー網 (BLD-500)	—	—	2
191	蝶ボルト M8×15 (SUS)	2	2	2
192	蓋 (BLD-270)	1	—	—
	蓋 (BLD-340)	—	1	—
	蓋 (BLD-500)	—	—	1
193	蓋ヒンジ右 (SRB)	1	1	1
194	蓋ヒンジ中 (SRB)	1	1	1
195	蓋ヒンジ左 (BLD)	1	1	1
196	十字穴付き六角ボルト M6×15 (SUS)	6	6	6
197	ばね座金 M6 (SUS)	21	23	27
198	六角ナット M6 (SUS)	31	35	41
199	スナップピン φ10用 (SUS)	1	1	1
200	取手 (AP-3-1)	2	2	3
201	ばね座金付き十字穴付き 六角ボルト M6×15 (SUS)	5	5	7
202	キャッチレバー (C-506)	1	1	1
203	エプトシール (5×20×1000)	12	13	15
204	防塵フェルト (φ60-φ43)	—	—	1
205	防塵フェルト (φ50-φ33)	3	3	2
206	軸受けフランジ駆動側 (BLD-340)	1	1	—
	軸受けフランジ駆動側 (BLD)	—	—	1
207	軸受けフランジ右 (ATB)	1	1	1
208	六角ボルト M12×30 (SUS)	7	7	7
209	ばね座金 M12 (SUS)	7	7	7
210	混合羽根 (BLD 1 5 枚) 受注生産	1	—	—
	混合羽根 (BLD 1 7 枚) 受注生産	—	1	—
	混合羽根 (BLD 2 1 枚) 受注生産	—	—	1
211	混合羽根ゴム	15	17	21
212	ゴム押さえA	7	8	10
213	ゴム押さえB	8	9	11
214	十字穴付き六角ボルト M6×20 (SUS)	15	17	21
215	ローター (BLD-270)	1	—	—
	ローター (BLD-340)	—	1	—
	ローター (BLD-500)	—	—	1

No.	部 品 名	数量		
		270	340	500
216	ローター従動軸受け	1	1	1
217	平座金 内径φ16.2 ×外径φ29.6×t2.0 (SUS)	※ 3	※ 3	※ 3
218	ローター従動軸受けパッキン	1	1	1
219	ブッシュ (LFB-1620)	1	1	1
220	ノブボルト M8×20	2	2	2
221	平座金 M8 (SUS)	2	2	2
222	ヒンジ押さえ板	4	5	8
223	底板アッシー (BLD-270) 受注生産	1	—	—
	底板アッシー (BLD-340) 受注生産	—	1	—
	底板アッシー (BLD-500) 受注生産	—	—	1
224	底板レバー	4	5	6
225	底板左端レバー	1	1	1
226	ばね座金 M10 (SUS)	5	6	7
227	六角ナット M10 (SUS)	10	12	14
228	ハンドルニギリ (エメラルドグリーン)	5	6	7
229	底板フェルトA	8	10	12
230	底板フェルトB (駆動側)	1	1	1
231	底板フェルトC (従動側)	1	1	1
232	シャッターガイド	8	10	12
233	ばね座金付き十字穴付き 六角ボルト M6×20 (SUS)	8	10	12
234	平座 (外径φ20×内径φ6.5×t3.0)	8	10	12
235	シャッター (BLD-270)	1	—	—
	シャッター (BLD-340)	—	1	—
	シャッター (BLD-500)	—	—	1
236	チェーンカバー (BLD-340)	1	1	—
	チェーンカバー (BLD)	—	—	1
237	蛍光シール (赤)	1	1	1
238	蛍光シール (白)	1	1	1
239	シャーボルト交換シール (No.TD38464)	1	1	1
240	目盛表シール (No.TD38399)	1	1	1
241	投入量制限シール (No.TD38394)	1	1	1
242	最大積載量270kg以下シール (No.TE38182)	1	—	—
	最大積載量340kg以下シール (No.TE38179)	—	1	—
	最大積載量500kg以下シール (No.TE38171)	—	—	1
243	警告シール (No. TD38393)	1	1	1
244	アイナット M6	1	1	1
245	スプリングフック IAH70	1	1	1
246	ワゴム	2	2	2
247	結束バンド AB150-W 黒	1	1	1
248	ビニールチューブ 内径φ18	1	1	1
249	BLEND SPREADERシール	1	1	1
250	無線リモコンシール	1	1	1
251	制限標識マークシール	1	1	1
252	速度制限シール	1	1	1
253	ノブスターN (M8ナット SUS 組込み)	2	2	2
254	十字穴付き六角ボルト M8×30 (SUS)	2	2	2
255	平座 (外径φ25×内径φ6.5×t1.5)	8	10	12
256	十字穴付き六角ボルト M6×10 (SUS)	2	2	2

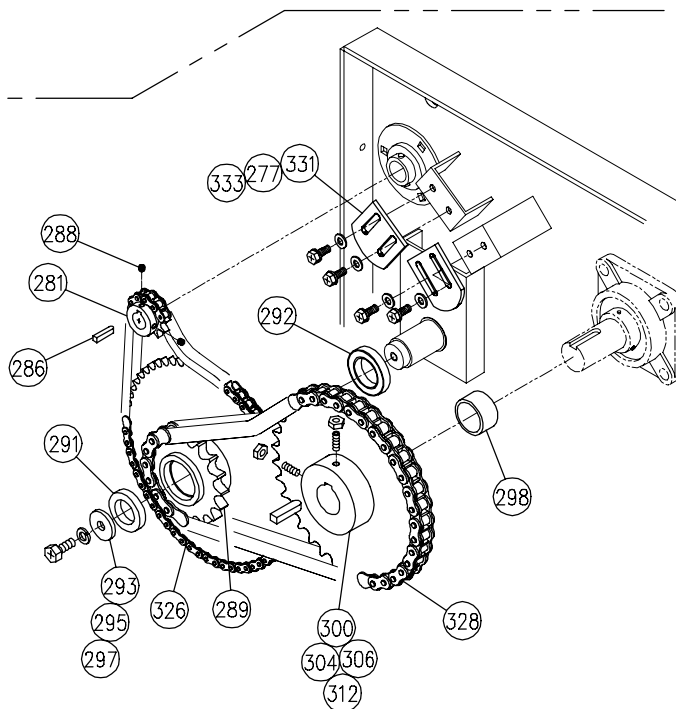
※ 調整用なので、使用する数量が異なることがあります。

E. 駆動部

※ 図はBLD-500で表示



※ BLD-270,340 駆動部



部品表 (駆動部)

No.	部 品 名	数量		
		270	340	500
261	シャッターブラケット	1	1	1
262	十字穴付き六角ボルト M10×20 (SUS)	2	2	2
263	ばね座金 M10 (SUS)	2	2	2
264	平座金 M10 (SUS)	2	2	2
265	シャッターレバー (BLD)	1	1	1
266	平座金 M12	1	1	1

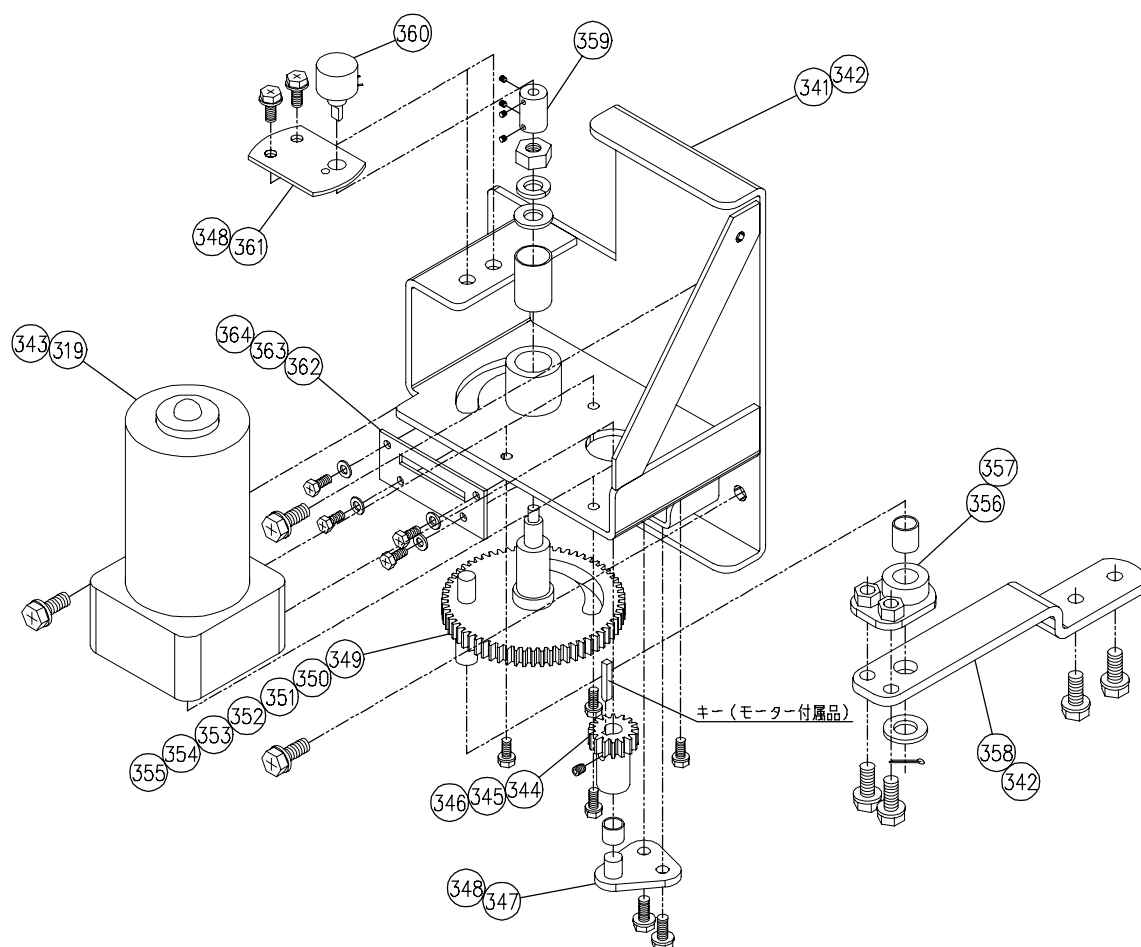
No.	部 品 名	数量		
		270	340	500
267	Rピン φ12用	3	3	3
268	ブッシュ (LFB-1215)	3	3	3
269	ローラー (φ20)	1	1	1
270	ブッシュ (LFB-1015)	1	1	1
271	平座金 M10 小形	1	1	1
272	C型止め輪 φ10軸用	1	1	1
273	シャッター板 (BLD)	1	1	1

部品表（駆動部）

No.	部 品 名	数量		
		270	340	500
274	シャッターシール (DSB)	1	1	1
275	ノブボルト	1	1	1
276	ばね座金 M8 (SUS)	1	1	1
277	平座金 M8 (SUS)	13	13	13
278	サブリンク	1	1	1
279	平座金 M12 (SUS)	2	2	2
280	ハンドルニギリ (エメラルドグリーン)	1	1	1
281	駆動スプロ (歯数11)	1	1	—
282	駆動スプロ (歯数12)	—	—	1
283	駆動スプロハブ	—	—	1
284	六角穴付きボルト M4×60 12.9T	—	—	4
285	ばね座金 M4	—	—	4
286	キー 6×6×30 (片R)	1	1	—
287	キー 8×7×50	—	—	1
288	六角穴付き止めねじ M6×6	2	2	2
289	減速スプロ (BLD-270, 340)	1	1	—
290	減速スプロ (BLD)	—	—	1
291	ベアリング (6906LLU)	1	1	—
292	ベアリング (6907LLU)	1	1	2
293	平座 (φ35-φ11)	1	1	—
294	平座 (φ40-φ11)	—	—	1
295	六角ボルト M10×20	1	1	—
296	六角ボルト M10×25	—	—	1
297	ばね座金 M10	1	1	5
298	カラー (φ42.7×t3.5)	1	1	—
299	平座 (φ70-φ46)	—	—	1
300	混合スプロ (BLD-270, 340)	1	1	—
301	混合スプロ (BLD)	—	—	1
302	混合スプロフランジ (BLD)	—	—	1
303	六角穴付きボルト M10×30	—	—	4
304	キー 10×8×40 片アール	1	1	—
305	キー 14×9×50 片アール	—	—	1
306	六角穴付き止めねじ M8×30	2	2	2
307	ローター駆動軸	1	1	1
308	平座金 φ16.2×φ29.6 ×t2.0 (SUS)	※ 1	※ 1	※ 1
309	駆動軸パッキン	1	1	1
310	ローター駆動軸受け	1	1	1
311	ばね座付き十字穴付き 六角ボルトM8×25 (SUS)	3	3	3
312	六角ナット M8 (SUS)	5	5	5
313	ブッシュ (LFF-1615)	1	1	1
314	ブッシュ (LFB-1620)	1	1	1
315	モーターギア (歯数10)	1	1	1
316	六角穴付き止めねじ M6×10	3	3	3
317	ロータースプロ (歯数27)	1	1	1
318	キー 4×4×25 片アール	1	1	1
319	ギアードモーター (TD2444HG-302T-8B100A) キー (4×4×25 片アール) 付き	2	2	2
320	極低頭六角穴付きボルト M5×15 (SUS)	4	4	4
321	ばね座金 M5 (SUS)	4	4	4
322	平座金 M5 (SUS)	4	4	4
323	モーターカバー	1	1	1
324	ばね座付き十字穴付き 六角ボルトM6×15 (SUS)	2	2	2
325	グロメット (B10-1)	1	1	1
326	チェーン (RS40 68リンク)	1	1	—
327	チェーン (RS50 60リンク)	—	—	1
328	チェーン (RS60 56リンク)	1	1	—
329	チェーン (RS60 68リンク)	—	—	1
330	チェーン (RS35 80リンク)	1	1	1
331	テンション (ATB)	2	2	2
332	ローターチェーン テンション	1	1	1
333	ばね座付き十字穴付き 六角ボルトM8×20 (SUS)	6	6	6

※ 調整用なので、使用する数量が異なることがあります。

F. シャッターユニット部



部品表 (シャッターユニット部)

No.	部 品 名	数量	No.	部 品 名	数量
341	ユニットベース	1	354	平座金 M12	1
342	ばね座付き十字穴付き 六角ボルト M8×20 (SUS)	7	355	割ピン φ2.5×20	1
343	ばね座付き十字穴付き 六角ボルト M5×12	4	356	シャッターロッド繋ぎ	1
344	モーターギア (DSB)	1	357	ブッシュ (LFB-1215)	1
345	六角穴付き止めねじ M5×6	1	358	シャッターロッド (BLD)	1
346	ブッシュ (LFB-1010)	1		ポテンショカップリング	
347	ギア軸受け	1	359	E69-C06B 六角穴付き止めねじ (M3×5) 付き	1
348	ばね座付き十字穴付き 六角ボルト M6×15 (SUS)	4		ポテンショメータ	
349	電動シャッターギア	1	360	STRK2210S103 歯付き座金、 六角ナット付き	1
350	ブッシュ (LFB-1830)	1	361	ポテンショメータベース	1
351	ばね座金 M10	1	362	ゴム板	1
352	平座金 M10	1	363	十字穴付き六角ボルト M5×12 (SUS)	4
353	六角ナット M10	1	364	平座金 M5 (SUS)	4

■ 使用後の管理

A. 一日の作業が終わった時

- (1) ホッパー内に残った肥料は、シャッターを全開にして混合羽根と散布ローターを回転させ排出して下さい。それでも残った肥料は、トラクタのエンジンを停止し、底板を開けて肥料を排出して下さい。
(底板の開け方は、16ページの底板の開閉方法の項参照。)
- (2) 混合羽根やシャッターに付着した肥料は取り除いて下さい。
- (3) ホッパー内部の水濡れは翌日の作業に影響しますので、雨、夜露等には十分注意して下さい。

B. 今期の作業が終わった時

- (1) 底板を開けて肥料を全て排出し、シャッターを外して底板やシャッターに付着した肥料を良く落として下さい。(エアーコンプレッサーを使ったり、水洗いをすると良く落ちます。)
- (2) 水洗いする場合は、電気部品に水がかからないように注意して下さい。また、水洗い後は良く乾燥させて下さい。乾燥後、ブッシュやP I C軸等の可動部分に潤滑剤を少量噴き掛けておくと錆び難くなります。(肥料が触れる部分には噴き掛けないで下さい。)

※肥料等の散布剤は強い酸性を有していますので、清掃は念入りに行ってください。

■ 仕様諸元

型 式		BLD-270					BLD-340					BLD-500	
		0S	A1	A2	B	0L	0S	A1	A2	B	0L	0S	0L
		1S			BM		1S			BM		1S	
寸 法 [mm]	全 幅	1 6 9 6					2 0 8 5					2 4 9 7	
	奥行き	1060	970	1019	970	1060	1060	970	1019	970	1060	1100	1100
	全 高	635	675	667	675	685	635	675	667	675	685	650	700
重 量 [Kg] (スタンド、ジョイント除く)		258	251	253	250	265	278	271	273	270	285	363	370
ホッパー容量 [ℓ]		2 7 0					3 4 0					5 0 0	
散布幅 [mm]		1 6 0 0					2 0 0 0					2 4 0 0	
適応トラクター		2 5 ～ 7 5 ps					4 0 ～ 7 5 ps					5 5 ～ 1 0 0 ps	
散布量 [Kg/10a]		けいふん 2 5 0 ～ 4 3 0 ペレット 4 0 ～ 4 4 0 (作業速度 6 [Km/h]時)											
散布肥料種類		粒状化成、有機ペレット、コンポスト、けいふん、 ケイカル、ヨウリン等の乾燥した肥料											
肥料混合動力		トラクタ P T O											
散布量調節		無線リモコンでの開度調整											
肥料の散布・停止		電動スライドシャッター (無線コントロール)											
散布ローター動力 シャッター動力		D C 1 2 Vギアードモーター											
シャッター電源		トラクターの電源カプラまたはバッテリー											

装着型式	0 S	1 S	A 1	A 2	B	BM	0 L
装着方法	日農工 標準S型 オートヒッチ	標準3P 手動装着	日農工 特殊A1型 オートヒッチ	日農工 特殊A2型 オートヒッチ	日農工 特殊B型 オートヒッチ	三菱 特殊B型 オートヒッチ	日農工 標準L型 オートヒッチ

製造元



株式会社 **タイショー**

水戸市元吉田町1027

TEL/029(247)5411 ● FAX/029(248)2172

No. 382309-2